



学校法人常磐大学

常磐大学大学院

常磐大学

常磐短期大学

〒310-8585 茨城県水戸市見和1-430-1
TEL.029-232-2511 FAX.029-231-6078
<https://www.tokiwa.ac.jp/>

常磐大学高等学校

〒310-0036 茨城県水戸市新荘3-2-28
TEL.029-224-1707 FAX.029-224-6579
<https://www.tokiwa.ac.jp/~tokikou/>

智学館中等教育学校

〒310-0914 茨城県水戸市小吹町2092
TEL.029-212-3311 FAX.029-212-3300
<https://www.tokiwa.ac.jp/~chigakukan/>

常磐大学幼稚園

〒310-8585 茨城県水戸市見和1-425
TEL.029-232-2680 FAX.029-232-2824
<https://www.tokiwa.ac.jp/~youchien/>



UNIVERSITY
ACCREDITED
2017.4-2024.3
常磐大学は平成28年度
大学評価の結果、(公財)
大学基準協会の大学基
準に適合していると認定
されました。



ACCREDITED
2014
常磐短期大学は平成26
年度(一財)短期大学基
準協会による第三者評
価の結果、適格と認定さ
れました。



Annual Report 2018

学校法人常磐大学
2017年度の活動と
財務状況

学校法人常磐大学 建学の精神

実学を重んじ 真摯な態度を身につけた 人間を育てる

まだ女性を受け入れる教育機関が乏しかった1909年、

学校法人常磐大学の前身は、

女性の自立を支える私塾として開学しました。

以降、幼稚園から大学院までを擁する総合学園となった今も、

創立者の意志を受け継いだ

「実学を重んじ真摯な態度を身につけた人間を育てる」を

建学の精神に、社会に貢献できる人材の育成に努めています。

沿革

Historical Background

私塾から総合学園へ。100年の歴史に立脚した理想の教育モデルを追求する教育・研究機関へ。

1909年	小田木(諸澤)みよ 水戸市馬口労町に裁縫教授所を開設	2002年	常磐短期大学の幼児教育学科を幼児教育保育学科に名称変更	
1922年	水戸常磐女学校を開校	2003年	常磐短期大学教養学科、経営情報学科を募集停止 常磐短期大学キャリア教養学科を設置	
1935年	常磐高等女学校を開校	2004年	常磐大学大学院コミュニティ振興学研究所 コミュニティ振興学専攻修士課程を設置 常磐大学人間科学部人間関係学科、組織管理学科および 国際学部国際協力学科、国際ビジネス学科を募集停止	
1948年	学制改革により総合制の常磐女子高等学校を開校 (普通科、被服科、商業科、別科)	常磐大学人間科学部心理教育学科、現代社会学科および 国際学部国際関係学科(国際協力学科専攻、国際ビジネス学専攻)、 英米語学科を設置	2005年	学校法人常磐学園を学校法人常磐大学に名称変更 常磐大学大学院被害者学研究科被害者学専攻修士課程を設置 常磐短期大学附属幼稚園を常磐大学幼稚園に名称変更
1951年	私立学校法により学校法人常磐学園設置認可	2006年	常磐大学コミュニティ振興学部地域政策学科を設置	
1966年	常磐学園短期大学設置認可 常磐学園短期大学を開学(家政科家政専攻、家政科食物栄養専攻)	2007年	智学館中等教育学校設置認可	
1968年	常磐学園短期大学幼児教育科を設置	2008年	常磐大学人間科学部心理教育学科および国際学部国際関係学科 (国際協力学科専攻、国際ビジネス学専攻)を募集停止 常磐大学人間科学部心理学、教育学科、健康栄養学科および 国際学部経営学科を設置 常磐短期大学生活科学科生活科学専攻、 生活科学科食物栄養専攻を募集停止 智学館中等教育学校を開校	
1969年	常磐学園短期大学附属幼稚園設置認可	2013年	常磐大学大学院被害者学研究科被害者学専攻博士課程(後期)を設置	
1970年	常磐学園短期大学附属幼稚園を開園	2015年	常磐大学幼稚園が認定こども園(幼稚園型)に認定	
1975年	常磐学園短期大学教養科を設置	2016年	常磐大学大学院被害者学研究科被害者学専攻博士課程(後期)、 修士課程、およびコミュニティ振興学研究所コミュニティ振興学専攻 修士課程を募集停止	
1983年	常磐大学設置認可 常磐大学を開学 (人間科学部人間関係学科、人間科学部コミュニケーション学科)	2017年	常磐大学国際学部を募集停止(経営学科、英米語学科) 常磐大学コミュニティ振興学部を募集停止 (コミュニティ文化学科、地域政策学科、ヒューマンサービス学科) 常磐大学総合政策学部を設置(経営学科、法律行政学科、総合政策学科)	
1987年	常磐学園短期大学の学科名称変更(教養科を教養学科、幼児教育科を 幼児教育学科、家政科家政専攻を生活科学科生活科学専攻、 家政科食物栄養専攻を生活科学科食物栄養専攻)	2018年	常磐大学看護学部を設置(看護学科)	
1988年	常磐大学人間科学部組織管理学科を設置			
1989年	常磐大学大学院人間科学研究科人間科学専攻修士課程を設置			
1990年	常磐学園短期大学を常磐大学短期大学部に名称変更し、男女共学化 常磐大学短期大学部経営情報学科を設置 常磐学園短期大学附属幼稚園を 常磐大学短期大学部附属幼稚園に名称変更			
1993年	常磐大学大学院人間科学研究科人間科学専攻博士課程(後期)を設置			
1996年	常磐大学国際学部を設置(国際協力学科、国際ビジネス学科)			
1999年	常磐大学短期大学部を常磐短期大学に名称変更 常磐大学短期大学部附属幼稚園を常磐短期大学附属幼稚園に名称変更			
2000年	常磐大学コミュニティ振興学部を設置 (コミュニティ文化学科、ヒューマンサービス学科) 常磐女子高等学校を常磐大学高等学校に名称変更し、男女共学化			

ANNUAL REPORT 2018 CONTENTS

1 建学の精神／沿革	28 法人の概要	36 常磐大学高等学校
2 Mission & Vision	30 常磐大学大学院	38 智学館中等教育学校
4 2017年度 事業概要	31 常磐大学	40 常磐大学幼稚園
20 財務状況	33 常磐短期大学	42 キャンパス案内
26 データ	34 学生サポート／ センター・研究所	45 発行・出版物／アクセス



TOKIWA
マスコットキャラクター
「とくわんこ」



TOKIWAシンボルの三角を構成するのは、本学ゆかりの常磐松にちなんだ松葉です。これは3つのキーワード、自立・創造・真摯を象徴しており、学生・父母・教職員の三者が互いに協力・理解し合って教育の効果を高め、社会に貢献する人材の育成に寄与することを表しています。これまで培ってきた人間教育に重きを置く本学の伝統を受け継ぎながら、新たな時代の教育機関として発展していくために、このシンボルマークはその精神的な支えとして力強く存在するものです。

2014-2018 Mission & Vision

Mission

自己を高め、相互に協力し、
未来を拓くことのできる
人材を育成する

本学の建学の精神である「実学を重んじ真摯な態度を身につけた人間を育てる」に基づき、新たな時代のニーズに対応し得るミッションを策定し、学校法人常盤大学が設置する全ての教育機関に共通した基本的な指針として掲げるものとします。

知識基盤社会と称される21世紀の社会では、これまで以上に教育機関が担う責任は重く、不透明な時代の中で、柔軟な対応が求められています。グローバル化や少子高齢化の進展、地域の活力低下など、課題が山積する状況において、必要とされる教育機関として存在し続けるためには、有為な人材を育成し社会に貢献し続けることが必要と考えます。

本学では、学ぶことの楽しさと意義を知り、自主的に学び続けることで自己の能力を高め、絶え間なく変化する社会の中で実践的に活躍する人材を育成します。価値観が多様化した社会において、答えのない課題に取り組むためには、生涯学び続け自己を高める姿勢を身につけるとともに、他者と協力し、実現までの厳しい過程を乗り越える強い信念を有しなければなりません。

学校法人常盤大学は、設置している各学校それぞれの特性は高めながらも、一貫した考え方にに基づき連携することで、自主的な学びを養成する教育の環境を整備し、ここに掲げたミッションの実現に向け、教育活動に邁進します。



学校法人常盤大学 理事長 森 征一

PROFILE

西洋法制史(中世ローマ法学)専門。一橋大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学。慶應義塾大学助手、専任講師、助教授、教授を経て、2001年同大学法学部長・大学院法学研究科委員長。2005年学校法人慶應義塾常任理事、同年まで法文化学会理事長を務める。2010年学校法人常盤大学常任理事、2011年常盤大学・常盤短期大学長、2012年より現職。

Vision

ミッションの達成に向け、次の4つのビジョンを柱として、それぞれの部門における行動計画の実現を推進していきます。

1 挑戦し続け、イノベーションを創出する力の養成

創立者が、人間の持つ力を強く伸び出る「竹」に例えて表現したように、一人ひとりには必ず伸び出る強い力を持っており、その能力を見出し伸ばすことこそが教育であると考えます。カリキュラムの見直しや授業方法の充実などを図り、魅力ある学びを創出することで、

継続的に何事にも挑戦する姿勢を身につけ、社会に貢献できる力を養成します。

入口(入試制度)と出口(キャリア・進路支援)においては、それぞれの個性に対応できる体制と制度を構築し、一人ひとりに適した教育を実現します。

- ◎大学・短期大学の改組転換を計画、実施
- ◎大学院の教育改革
- ◎授業内容・方法の充実
- ◎入試制度改革
- ◎キャリア支援・進路支援の強化

2 地域に学び、地域を世界に繋ぎ、安心安全な社会をつくる人材の育成

地域と連携し、社会の中で実践的な学びの場を創出することで、社会に適応するための「コミュニケーション力」、社会での活動に必要な問題を発見し

乗り越えるための「問題解決力」を身につけた人材を育成します。また、グローバル化が進む社会で活躍するための「語学力」の養成を強化します。

- ◎産学官民連携の実践
- ◎地域連携の推進
- ◎国際化の推進
- ◎同窓会との連携強化

3 総合的な「教育力」の強化

さまざまな改革を実現するためには、教育を支える教職員の能力を高めることが必要です。創立者が信念として語った「教えるものは常に前進してこそ指導する資格がある」との言葉にもある通り、教職員の研修

制度を拡充するなど質的向上の方策を実現します。情報機器をはじめとした教育設備の充実や、教育研究のための環境整備等を進めるとともに、教育研究活動の活性化に向けた支援を強化します。

- ◎人材育成計画の策定および実施
- ◎教育研究に係わる経費の適正化
- ◎教育環境の整備
- ◎修学支援の強化
- ◎課外活動支援の強化

4 持続的な教育活動を可能にする運営基盤の確立

魅力ある教育を継続しながら、それらを適切に伝達する効果的な広報活動を実践し、学生・生徒・園児の安定した確保を実現します。また、時代に即し

た判断と、中長期的な計画に基づき、経費の見直しを図り、健全な財政状況を実現するための施策を推進します。

- ◎財務計画の策定
- ◎人件費の適正化
- ◎施設設備計画の策定および実施
- ◎広報活動の強化
- ◎設置する教育機関間の連携強化

2017年度 事業概要

Achievement Report 2017

学校法人常磐大学

人的資源

01 教職員人事制度の見直し

- ・「大学教員の勤務および服務規程」の一部変更
学生に寄り添う教育への配慮について規定化、平成 28 年度認証評価機関による指摘事項、看護学部の新設を踏まえた教員勤務態様の整合性確保の必要性、他大学の現状との比較等勘案し、学内勤務拘束時間および研修日の位置づけ等の見直しを実施した。
- ・「常磐大学・常磐短期大学サバティカル規程」の一部変更
サバティカルの適用を受ける者の資格要件ならびにサバティカル適用者に対する個人研究費の支給およびサバティカル終了後の勤務に関する義務等についての見直しを実施した。
- ・「学校法人常磐大学兼職規程」の制定
専任教員の教育関連の職種に係る兼職およびそれ以外の職員ならびに職種に係る兼職についてその取扱いを明確にするために新たに規程を制定した。
- ・「学校法人常磐大学給与規則」の一部変更
休職期間中の給与および休暇期間中の給与に関する条文、カウンセラー手当の廃止および中等教育学校の諸手当の追加等の見直しを実施した。
- ・「大学教員の採用および昇格の手續に関する規程」の一部変更
現行の運用実態に合わせた条文の変更ならびに非常勤教員の採用手続きの明確化を図った。
- ・「学校法人常磐大学専任職員定数規則」の一部変更
略称規定の採用、採用・昇格等の原則および教員定数等に関する見直しを実施した。

02 人員計画の見直しと人事採用計画の策定

- ・中途採用事務職員を配することで男女比ならびに年齢バランスの均等化に着手した。
- ・業務分掌に示された業務内容に照らし、実現可能とする人事配置の適正化を図った。

03 効果的な人材育成、研修施策の実施

- ・「学校法人常磐大学の求める職員像」を策定した。
- ・研修方針の制度と研修体系の明確化を図った。
- ・常磐大学・常磐短期大学教員の研究成果実績報告の義務化を徹底した。

- ・FD・SDと連携して組織的に取り組む検討を行い、最初の取り組みとして大学院、大学および短期大学におけるFD活動に対してSDの一環として職員の参加を促進（最低1つのFD活動への出席の義務付け）した。

04 人事評価制度の導入試行に向けた検討継続

- ・試行に向けて人事評価制度構築の検討を継続した。

05 法改正等に伴う諸規程の見直し

- ・「常磐大学・常磐短期大学就業規則」の一部変更
最近の社会動向、労働基準法をはじめとする諸々の法制、私学共済の制度との整合および本学の現在の運用実態等を勘案し、より適正な規則へ変更した。
- ・「学校法人常磐大学育児休業・育児短時間勤務等に関する規程」および「学校法人常磐大学介護休業・介護短時間勤務等に関する規程」を一部変更した。
雇用保険法等の一部を改正する法律の公布を受け、育児休業、介護休業等育児または家族介護を行う労働者の福祉に関する法律の改正に伴う関連条文等の見直しを実施した。
- ・「常磐大学・常磐短期大学任期制教員に関する規程」の一部変更
労働契約法の改正に伴う無期転換ルールならびに特例適用の明確化を図った。
- ・「学校法人常磐大学の設置する学校の任期制教員に関する規程」の一部変更
労働契約法の改正に伴う無期労働契約への転換措置に関する見直しを実施した。
- ・「学校法人常磐大学任期付職員規程」の一部変更
規程の対象を明確化、労働基準法の規定に基づく雇用契約期間の上限設定、労働契約法の改正に伴う無期労働契約への転換措置に関する見直しを実施した。
- ・「外部資金による嘱託研究員等に関する規程」の一部変更
労働契約法の改正に伴う無期転換ルールならびに特例適用の明確化、労働基準法の規定に基づく雇用契約期間の上限設定等の見直しを実施した。
- ・「学校法人常磐大学嘱託職員の採用および給与に関する規程」の一部変更
労働基準法の規定に基づく雇用契約期間の上限設定および再応募に係る条文等に関する見直しを実施した。
- ・「常磐大学・常磐短期大学非常勤講師勤務規程」の一部変更
労働基準法の規定に基づく委嘱期間の上限設定、専任教員転換推進に関する措置、労働契約法の改正に伴う無期労働契約への転換措置、本学都合による基本給および通勤手当の取扱い等に関する見直しを実施した。

- ・「常磐大学高等学校・智学館中等教育学校非常勤講師勤務規程」および「常磐大学幼稚園非常勤講師勤務規程」の一部変更
労働基準法の規定に基づく委嘱期間の上限設定および基本給の明示の変更および雇止め等の告知等に関する見直しを実施した。
- ・「学校法人常磐大学非常勤職員規程」の一部変更
労働基準法の規定に基づく雇用期間の上限設定、職責の明示、勤務時間の上限設定、基本給明示の変更および雇止めの告知等に関する見直しを実施した。

06 適正な労働時間管理と時間外労働の削減

- ・適正な労働時間についての継続的な周知と意識喚起を実施した。
- ・定時退勤の習慣化およびノー残業デーの設定を促した。
- ・時間外労働の上限設定および深夜労働の禁止を徹底した。

財務

01 5ヶ年経営改善計画と中期財務見通しの精査

看護学部開設に伴う整備計画や見和キャンパス施設整備事業など中期計画の見直しと、2018 年度収支の見通しの再精査を行った。

02 常磐大学の新学部設置を踏まえた、広報施策の充実と学生・生徒募集の強化

〔各学校に記載〕

03 経常的経費の支出抑制

2017 年度は、各学校 2016 年度経常的経費予算から2%のマイナスシーリングでの予算配分を行い、執行時においても支出の管理、抑制に努めた（教育活動資金収支差額比率：12.6%（2016 年度：8.5%））。2018 年度に向けては、看護学部の開設もあり必要経費が求められる一方、既往予算の見直しも図り、経常的経費としては 2017 年度程度の経費配分を行った。

04 教育研究に係る経費支出の適正化

2017 年度の比率としては、大学・短期大学では 33.0%と 2016 年度よりも高値であり、教育研究環境の維持、

充実を図れた結果となった。法人全体においても 34.2%と全国平均である 33.0%（平成 29 年度版『今日の私学財政』参考）より高値となっており過大支出ではあるが、2017 年度予算と比較すると支出抑制が図れた。今後は引き続き、教育研究環境の維持、充実を図りつつ、法人全体として全国平均程度の支出に抑えることで経常収支差額の改善、適正化を図っていく。

○2017年度実績 33.0%（大学・短期大学合計比率）

部門	経常収入	教育研究経費	比率
法人全体	5,191,819,782円	1,775,000,006円	34.2%
大学	3,081,180,248円	1,051,510,104円	34.1%
短期大学	624,373,308円	172,259,924円	27.6%

○2016年度実績 28.3%（大学・短期大学合計比率）

部門	経常収入	教育研究経費	比率
法人全体	5,175,833,449円	1,624,261,952円	31.4%
大学	3,082,709,253円	885,291,318円	28.7%
短期大学	641,746,611円	169,431,835円	26.4%

〔注〕「経常収入」＝教育活動収入計＋教育活動外収入計

05 人件費の抑制施策の継続

- ・大学および短期大学専任教員に対する賞与の勤勉手当支給基準としての出勤率の厳格化を図った。
- ・定年後の再雇用者に対する基本給月額に関する申し合わせを徹底した。
- ・事務職員の時間外労働の上限の設定および深夜労働の禁止を徹底した。
- ・適正な労働時間についての継続的な周知と意識喚起を実施した。
- ・定時退勤の習慣化およびノー残業デーの設定を促した。

06 見和キャンパス開設50年施設整備事業募金と、諸澤幸雄奨学金募金の継続

見和キャンパス開設 50 年施設整備事業募金の募集開始に伴い、本学ホームページの寄付サイトを更新し、コンビニエンスストアでの申し込み受付の実施など幅広く募集が行えるよう利便性の向上を図った。また、募金案内のパンフレットも制作し、教職員をはじめ、卒業生や企業への募集活動も行った。その中でも諸澤幸雄奨学金募金については、当初掲げた目標額に到達することができたが、経済的理由により学業の継続が困難な学生・生徒に対しての経済的支援を維持するため、今後も募集活動を継続していく。

2017年度 事業概要

Achievement Report 2017

○諸澤幸雄奨学金給付実績累計 (内2017年度)

	I種 奨学生	II種 奨学生	給付額
大学院	0名(0名)	0名(0名)	0円 (0円)
大学	66名(9名)	31名(5名)	22,400,000円(3,325,000円)
短期大学	10名(1名)	7名(0名)	3,960,000円 (165,000円)
高等学校	29名(0名)	8名(1名)	2,493,560円 (78,600円)
中等教育学校	7名(2名)	4名(0名)	1,361,640円 (205,200円)
計	112名(12名)	50名(6名)	30,215,200円(3,773,800円)

○寄付金総額 (2018年3月31日現在)

寄付金総額累計 (内 2017年度)	157,457,645円(14,667,000円)
募金件数累計 (内 2017年度)	4,591件 (304件)

(主な寄付の内訳)

諸澤幸雄奨学金の充実への寄付 (2018年3月31日現在)

寄付金額累計 (内 2017年度)	100,857,208円(3,394,000円)
募金件数累計 (内 2017年度)	4,026件 (108件)

見和キャンパス開設50年

施設整備事業募金への寄付 (2018年3月31日現在)

寄付金額累計 (内 2017年度)	11,006,760円(5,273,000円)
募金件数累計 (内 2017年度)	423件 (189件)

07 科学研究費補助金、受託研究費等の外部資金獲得の強化

2017年度における科学研究費助成事業の採択状況、受託研究ならびに寄付金による寄付講座および教育研究助成の実施状況は次のとおりである。〔()内は2016年度実績を示す〕

○科学研究費助成事業

50件 / 31,200,381円 (38件 / 24,110,000円)

○受託研究

1件 / 216,000円 (0件 / 0円)

○寄付金等

2件 / 1,700,000円 (3件 / 4,000,000円)
寄付講座 4科目開講 (6科目開講)
教育研究助成 4件 / 687,000円 (0件 / 0円)

08 国庫補助金の獲得に向けた取り組みの強化

- ・「私立大学等改革総合支援事業 タイプ4:グローバル化への対応」採択に向けた取り組み(概要は「常盤大学 教育研究①」および「常盤短期大学 教育研究①」に記載)
- ・「私立大学等改革総合支援事業 タイプ2:特色を發揮し、地域の発展を重層的に支える大学づくり」採択に向けた取り組み(概要は「常盤大学 地域連携・国際交流①」および「常盤短期大学 地域連携・国際交流①」に記載)

施設設備

01 看護学部設置に伴う整備(桜の郷キャンパス教室等改修工事、見和キャンパス研究室整備工事、教具・校具・備品・図書等の購入、Q棟地階書架設置)

看護学部の設置に伴い各種工事を実施した。

- ・桜の郷キャンパス教室等改修工事 [275,400円]
- ・見和キャンパス研究室整備工事 [36,708,931円]
- ・教具、校具、備品の購入 [20,379,144円]
- ・図書等(和書、洋書、学術雑誌、視聴覚資料)の購入 [11,383,281円]
- ・Q棟地階書架設置 [2,430,000円]

02 見和キャンパス体育館建設に伴う各種工事(屋外附帯工事、電話工事、備品等設置、既存体育館解体・整備工事)の実施

体育館建設に伴い各種工事ならびに既存体育館の解体・整備工事を実施した。

- ・屋外附帯工事 [25,659,124円]
- ・電話工事 [-円] 2017年度に計画したが、必要性が早まったため2016年度に実施
- ・備品等設置 [6,950,253円]
- ・既存体育館解体・整備工事 [66,530,460円] 既存体育館の解体撤去ならびに保存建屋(一部)の改修工事を実施し、屋外ステージとして整備した。



03 見和キャンパス内借地購入

校地として借用していた土地を取得した。[34,627,236円]

位置 水戸市見和1丁目414
地目 山林
面積 1,890㎡

04 見和キャンパスA・B棟の改築計画の策定(継続)

A・B棟の改築計画を策定(継続)する中で、第2号基本金への組入れを実施した。

05 姫ヶ丘寮の環境整備

個室内什器の一部を追加購入し設置した。

06 事務基幹システムの更新

2011年度に運用を開始した事務基幹システムについて、現行システムの経年劣化により、システムの信頼性・操作性・保守性の向上を図ることを目的に、既存のデータを引き継ぎつつ、ハードウェアおよびシステムを最新のバージョンに更新した。これにより、事務業務の中核のシステム基盤の安定稼働と高機能セキュリティ体制を実現した。

管理運営

01 常盤大学看護学部看護学科の設置

2017年8月29日、文部科学大臣より常盤大学看護学部設置の認可を受け、2018年4月1日の設置が決定した。

02 学校間の相互交流・連携強化(連絡会議等の検討)

[各学校に記載]

常盤大学

教育研究

01 国際化・グローバル化への対応のための教育の充実

ア「私立大学等改革総合支援事業 タイプ4:グローバル化への対応」採択に向けた取り組み

- a 英語を中心とした外国語教育(内容・方法等)の充実
- b 国際交流語学学習センターにおける語学学習支援の充実
「必修英語の教育内容の共通化」および「各種外部試験による積極的な単位認定の推進」を柱とする新

たな英語カリキュラムの枠組み(FTEC)を策定した(2018年度から実施)。また、常盤大学および常盤短期大学の全学的な国際化を推進するための機関として、教学会議の下に「全学国際化推進会議」を設置し、国際交流語学学習センターとの連携により、英語を主軸とした外国語教育の充実および学生の語学力の強化等に関する諸事業の企画立案、実施等に取り組んだ。

02 大学基準協会「第3期大学基準」を踏まえた内部質保証のための取り組みの推進

ア 内部質保証システムの検証および見直し

- a 実施体制の検証および見直し
- b 第三者の意見を反映させるための仕組みの構築

2016年度に受審した公益財団法人大学基準協会による大学評価(認証評価)の結果を踏まえ、内部質保証システムの検証等に取り組む、「第3期大学基準」への対応等に向けた今後の作業日程(目安)を策定した。

イ 教育プログラムの質保証に向けた取り組み

- a 適切な教育プログラムの編成・実施(3つのポリシーおよび教育課程の点検・見直し)
各学部・研究科において点検・評価活動に取り組んだ。具体的には、教育、研究、学生対応、教員、教員組織等の項目別に当年度の実現計画を策定し、適時対応状況を確認するとともに、改善策を検討した。
- b 教員の資質向上のための取り組み(FDの実質化等)

一般財団法人全国大学実務教育協会「能動的学修の教員研修リーダー講座」に本学教員(1名)を派遣した。また、「2017年度FDフォーラム」(2018年2月開催)では、同講座参加教員による報告を通じて研修の成果を学内に還元するとともに、学内の事例発表等を通じて「ICTを活用した教育実践の可能性」等に関する情報の共有、認識の確立等に取り組んだ。

c 学習成果の保証に向けた学習目標の明確化

各学部・研究科における点検・評価活動、および各教務委員会・各研究科委員会による(統一されたマニュアルに基づく)各授業科目のシラバスチェック等を通じて、学習成果の保証に向けた学習目標の明確化に取り組んだ。

2017年度 事業概要

Achievement Report 2017

03 教育研究活動の活性化に向けた外部資金獲得の促進

科学研究費助成事業については、制度等説明会の開催、個別相談等を通じて、申請の支援および奨励等に取り組んだ。学内研究助成では、研究代表者として科学研究費助成事業へ申請し不採択となった研究で、次年度に同様の申請を行う研究を支援するための研究種目（特別奨励研究助成）を設けている。また、教育および学術研究の充実・発展のための寄付金については、資金の募集のほか、学内公募等による資金の活用に取り組み、4科目の寄付講座を開設するとともに、4件の教育研究活動を採択した。

04 学生に寄り添う教育を指向した大学教員の勤務態様の見直し

「大学教員の勤務および服務規程」について、大学教員の職務、授業担当時間数、学外勤務および兼職等に関する規定の見直しを行い、所要の改正を実施した。

学生支援

01 学修支援を推進するサポート体制の充実

ア 基礎学力補完のための取り組み

イ 学習時間の確保(学生の学習努力の促進)のための取り組み

eラーニング教材の導入

入学前教育、初年次教育、就職試験対策に関する各教材(eラーニング教材)として「竹びとラーニング」を導入し、学習段階に応じた学生の基礎学力の強化に向けた取り組みを推進するとともに、就職試験対策の充実に取り組んだ。また、①入学前課題への取り組み等を通じた学習到達度の把握、②基礎能力向上支援のための個別指導・講座指導、③成果測定のための実力診断テストからなる「基礎能力アッププログラム」においても「竹びとラーニング」を導入し、内容の充実に取り組んだ。

02 課外活動への支援の充実

- ・新入生ガイダンス期間中に学生主導によるサークル紹介を前年に引き続き実施した。
- ・学生団体に関する規程整備を行い、本学の名を高める活動を積極的に支援していくことが明確になった。

03 キャリア支援プログラムの充実

キャリア支援センターで次の就職活動支援事業を実施した。

- ・就職ガイダンス(3年生を対象に学科別に実施)
- ・公務員試験対策講座
- ・就職セミナー(自己分析、履歴書等対策、面接・グループディスカッション対策、メイク講座など)
- ・業界職種セミナー(学内業界・企業研究会、企業研究セミナー、業界見学バスツアーなど)
- ・学内合同企業説明会



ア インターシップの推進

- ・インターシップガイダンス(受入先の探し方、応募方法、社会人として必要なマナー研修)

イ 就職試験対策の充実

- ・就職試験対策(SPI模試、SPI対策講座)

学生募集

01 広報活動の充実

全学広報委員会において、学生募集に関する広報活動の基本方針を審議し、この方針に沿って学生募集の企画を検討、下記に示す広報活動を展開した。なお、大学の入試結果データと資料請求・イベント参加などで大学が個人情報取得した履歴を基にした大学接触者データとをマッチングさせ、それらのデータ解析を行うことにより当該年度の入試、接触状況の分析等を行い、入試結果報告会を9月に開催し、入試動向を概括して今後の学生の受け入れの一助とした。

- ・常磐大学および常磐短期大学の志願者、受験者、合格者データ(過去5年間)に基づき、募集活動の基本である高校訪問を、年間を通して実施した。特に、看護学部開設の広報、および総合政策学部の開設2年目広報で、初年度定員未充足の2学科の案内を中心に行った。また、

看護学部については、認可前の6月および認可後の9月の時期に、茨城県内全域、および栃木県、福島県の隣接地域の高校に、看護学部就任予定の教員と連携をして、重点的に広報活動を行った。

- ・県内高校生を中心として本学への理解が深まるよう取り組み、さらに高大連携の観点から大学への関心と高校との交流を高めるため、出張講座(模擬講義)を企画、開催した。
- ・高校生を対象とした進学説明会(主に茨城県、栃木県、福島県のイベント会場での相談会、高校内での説明会等)に参加して志願者増を目指すとともに、高校教諭を対象とした大学説明会を開催して本学の学部、学科の概要および入試制度等の説明を実施した。
- ・常磐大学・常磐短期大学大学説明会の開催
日 時: 6月2日(金) [説明会 14:00~15:30、個別相談・施設見学 15:30~16:30]
場 所: 常磐大学・常磐短期大学 Q棟センターホール
- ・看護学部新設の周知、およびオープンキャンパスへの来場者数増などを目途として、交通広告(水戸駅アドバイザー(柱巻き広告)、水戸駅・石岡駅・土浦駅アドビジョン(デジタルサイネージ広告)、水戸地区・日立地区・土浦地区ラッピングバス運行)を掲出し、併せてテレビCM(とちぎテレビ)およびラジオCM(茨城放送)などのメディア広告を7月に行った。本学の認知度アップ、志願者増を狙い、主に看護学部の新設、試験系入試の出願促進のためのインターネット広告(9~1月)を実施し、さらに、試験系入試志願者、特にセンター試験利用入試での志願者増を狙い、国公立大学と本学併願を想定できる受験生、および看護系学部志望の受験生にWEBDM(12・2月)、およびリーフレットDM(12・1月)を送付した。
- ・オープンキャンパスの実施(参加者総数: 3,310名)
募集活動の主要イベントとして、短期大学との共催で本学のキャンパスを開放して学部・学科の紹介、模擬授業などを行うオープンキャンパスを5回、公開講座を2回実施し、本学への理解が深まるよう取り組みを行った。第2回のオープンキャンパスでは、これまでの説明会形式からイベント形式とし、入試説明を中心にさまざまなイベントを取り入れた。



	期 日	時 間	内 容	参加者
第1回	3/25(土)	13:00~16:00	大学・短期大学紹介、学部・学科選びのポイントなど	194名
春TOL	5/13(土) 5/20(土) 5/27(土)	10:00~12:00	TOKIWA OPEN LECTURE ~高校生向け公開講座(学科・学問系統別講座)	189名
第2回	6/17(土)	10:00~14:00	AO・推薦入試説明、模擬授業、個別相談、学科体験、学生企画、キャンパスツアー等	439名
第3回	7/23(日)	10:00~14:00	模擬授業、個別相談、学生企画、学科体験、イベント、キャンパスツアー、学食体験等	872名
第4回	8/5(土)	10:00~14:00	模擬授業、個別相談、学生企画、学科体験、イベント、キャンパスツアー、学食体験等	1,229名
第5回	9/30(土)	10:00~13:00	入試説明、学部・学科説明、個別相談、キャンパスツアーなど	315名
—	10/28(土) 10/29(日)	10:00~16:00	進学相談会(とぎわ祭と同日開催)	—
秋TOL	11/18(土) 11/25(土) 12/2(土)	10:00~12:00	TOKIWA OPEN LECTURE ~高校生向け公開講座(学科・学問系統別講座)	72名

02 常磐大学高等学校、智学館中等教育学校との連携強化

常磐大学高等学校、智学館中等教育学校からの志願者増を目標として、模擬面接や進学説明会等を実施。また、常磐大学高等学校では、保護者向けの説明会を実施した。併せて、常磐大学コースの生徒向けに、常磐大学特別講義(計10講座)を企画、開催した。

03 入試制度の点検および見直し(インターネット出願導入の検討を含む)

大学入試委員会において、各入試制度実施後に確認された改善点等を基に、翌年度の入試実施に向け次のとおり検討した。

- ・AO入試において、以下のとおり、実施方法を変更した。
 - (1) 制度の統合
本学のAO入試の特徴は、参加者が、本学教員との対話を通じて本学での学びの内容や学習計画を理解した上で受験する入試制度としていることから、より丁寧な対話により合格者を選考するため、これまでの個別参加型AO入試を基に、統合した。
 - (2) 入試日程
日程(実施回数)を3回から4回に増やし、また、合格までの期間を短縮した。

2017年度 事業概要

Achievement Report 2017

- ・一般入試およびセンター試験利用入試での併願について
2019年度入試は人間科学部、総合政策学部および看護学部から2学部あるいは3学部の併願が可能とした。ただし、看護学部を併願する場合は、第1志望学部としてのみ認めることとする。
- ・各入試の出願期間、試験日、入学手続き期間等について、他大学との日程等と調整をし、見直しを図った。
- ・WEB出願の導入については、かねてより検討を進めており、2019年度募集活動より全ての入試制度において実施することとした。

地域連携・国際交流

01 地域における課題解決のための取り組みの推進

ア「私立大学等改革総合支援事業 タイプ2: 特色を発揮し、地域の発展を重層的に支える大学づくり」採択に向けた取り組み

- a 地域課題の解決に向けた教育研究の推進
 - ・茨城県社会福祉協議会「茨城県子育て支援研修」へ講師として、大学および短期大学の教員派遣
 - ・学生による道の駅ひたちおた支援事業への参加(いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム事業)
 - ・連携自治体等への委員および講師派遣
 - ・オープンカレッジ特別講座「水戸刀の魅力」開催
- b 地域の自治体、産業界等との連携の推進
 - ・一般社団法人茨城県経営者協会との「産学連携講座」の開講
 - ・常磐大学&水戸ホーリーホックコラボデーの開催
 - ・地域連携センター運営会議の下に地域意見交換会を設置(実績 笠間市)
 - ・大学生のライフデザインセミナー開催支援事業の実施(総合政策概論IIの授業の1コマで実施)
 - ・自治体等への学生ボランティアの派遣
 - ・自治体等と連携した学生プロジェクト活動継続



イ COCプラス採択事業「茨城と向き合い茨城に根ざし、未来を育む地域協創人材養成事業」の推進

- ・災害食レシピ集の発行
- ・ときわ bosai サポーターによる防災マップの作成
- ・災害食レシピ作りワークショップの開催(石岡商業高等学校と合同実施)
- ・COCプラスインターンシップへの参加
- ・いばらきCOCプラスシンポジウムへの参加(事例発表およびパネリスト)
- ・業界見学バスツアーの実施
- ・業界企業研究・インターンシップ促進イベントの実施
- ・業界企業研究会「OB・OG on Campus」の実施

ウ 社会安全政策研究所の設置

- ・事業実施計画策定
- ・地域社会における防犯、防災等の安全政策に関する意見交換会の計画策定

02 海外研修・交換留学プログラムの充実

ア 海外研修プログラム

- ・海外研修(アメリカ) カリフォルニア大学アーバイン校
2月4日～3月4日(29日間) 参加10名
- ・海外研修(タイ) チェンマイ・ラジャバット大学
3月2日～3月17日(16日間) 参加5名
- ・海外研修(フィリピン) バゴ市立大学
2月11日～2月24日(14日間) 参加10名
- ・海外研修(個人参加型) ※学外主催プログラム参加による履修
 - ベトナム研修(日本ベトナム友好協会茨城連合会主催) 参加2名
青年中国上海スタディツアー(茨城県国際交流協会主催) 参加8名



イ 交換留学制度

- ・アメリカの協定校への交換留学生派遣(カリフォルニア州立大学フレズノ校) 参加1名
- ・カナダの協定校への交換留学生派遣(ランガラ・カレッジ) 参加1名
- ・タイの協定校への交換留学生派遣(チェンマイ・ラジャバット大学) 参加3名
- ・アメリカの協定校からの交換留学生受入 受入8名
- ・カナダの協定校からの交換留学生受入 受入3名
- ・タイの協定校からの交換留学生受入 受入3名
- ・交換留学生との英会話交流活動(English Connections)、国際交流企画サポーター活動、国際交流パーティー等を実施した。また、17名の学生が国際交流会館に入居し、交換留学生と共同生活を送りながら、生活のサポート、文化交流の役割を担った。



ウ 協定校からの短期研修受入

- ・カナダの協定校からの短期受入(ランガラ・カレッジ)
6月3日～6月9日(7日間) 参加13名
- ・アメリカの協定校からの短期受入(カリフォルニア州立大学フレズノ校)
6月10日～6月13日(4日間) 参加14名

エ 官民協働海外留学支援制度

- ～トビタテ! 留学 JAPAN 日本代表プログラム～
第7期 1名採用
- ・コミュニティ振興学部3年(派遣先:タイ、デンマーク)(留学期間 2017年8月11日～2018年3月28日)「常磐大学・常磐短期大学 学生および教職員の海外における事故等緊急事態対応マニュアル」の整備

施設設備

01 キャンパスの環境整備 (K棟エレベーター設備更新、R・O(3階研究室)・Q棟5階空調設備更新、F・G・H棟屋上防水工事、R棟屋上防水・外壁工事、Q・Qs棟トイレ改修、A棟トイレ増設)

学生および教職員にとって、より良い教育・研究環境を実現するためにキャンパスの各環境整備を実施した。また、今後年次計画的に環境整備を実施する。

○K棟エレベーター設備更新工事 [12,430,000円]
設置から30年以上が経過したK棟エレベーターの更新工事を実施した。

○R棟空調設備更新工事(第3期分) [25,390,000円]
経年により劣化した各階の空調機のうち、R棟C系統(地下1階から3階)の更新工事を実施した。

○O棟(3階研究室)空調設備更新工事 [12,646,000円]
経年により劣化した各階の空調機のうち、O棟3階研究室の更新工事を実施した。

○Q棟5階空調設備更新工事 [8,537,000円]
経年により劣化した各階の空調機のうち、Q棟5階の更新工事を実施した。

○F・G・H棟屋上防水工事 [30,293,200円]
竣工から33年目を迎え建物の維持保全のため屋上防水工事を実施した。

○R棟屋上防水・外壁工事 [56,334,160円]
竣工から20年目を迎え建物の維持保全のため屋上防水および外壁のクラック補修・塗装工事を実施した。

○Q・Qs棟トイレ改修工事 [994,680円]
Q棟1階、Qs棟2・3階およびT棟地下1階の温水洗浄便座化改修工事を実施した。当初、K棟2階のリニューアル工事を計画したが、A棟トイレの既存数不足による増設要望が高まったことから次年度に見送った。

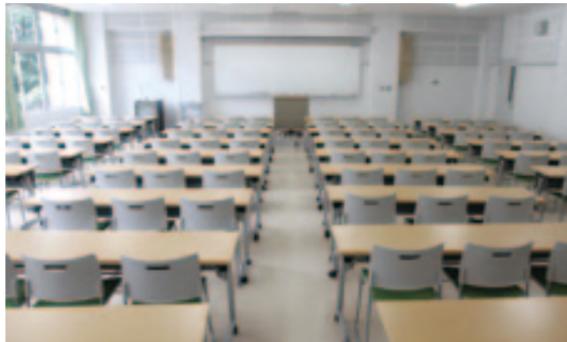
○A棟トイレ増設工事 [3,886,920円]
A棟トイレの既存数不足による増設要望が高まったことから、1階にトイレ(温水洗浄便座付)の増設工事を実施した。

2017年度 事業概要

Achievement Report 2017

02 G棟104教室改修工事の実施
[11,263,520円]

開学以来 33 年が経過した教室の経年劣化への対応および求められる授業環境変化に対応するため、固定机・椅子から移動可能机・椅子への変更、黒板からホワイトボードへの変更等の改修工事を実施した。



03 学生ポータルシステムの更新

2011年に運用を開始した学生ポータルシステムについて、学生の利便性の向上と現行システムの経年劣化の解消を目的に、既存のデータを引き継ぎつつ、ハードウェアおよびシステムを最新のバージョンに更新した。これにより、学習支援システムや就職支援システムとの連携が実現し、大学から学生への各種情報配信環境が整備された。

04 Qs棟情報教育システムの
PC増設

2012年に運用を開始したQs棟 201教室の情報教育システムについて、現行システムの経年劣化の解消と他の情報教育システムとの連携と強化を図ることを目的に、システムを更新し、併せて、自習室のPCを増設した。これにより、システムの信頼性・操作性・保守性の向上が実現し、授業環境ならびに自学自習環境が整備された。



常磐短期大学

教育研究

01 国際化・グローバル化への
対応のための教育の充実ア「私立大学等改革総合支援事業 タイプ4:
グローバル化への対応」採択に向けた取り組み

- a 英語を中心とした外国語教育(内容・方法等)の充実
 - b 国際交流語学学習センターにおける語学学習支援の充実
- 常磐大学および常磐短期大学の全学的な国際化を推進するための機関として、教学会議の下に「全学国際化推進会議」を設置し、国際交流語学学習センターとの連携により、英語を主軸とした外国語教育の充実および学生の語学力の強化等に関する諸事業の企画立案、実施等に取り組んだ。

02 短期大学基準協会「短期大学
評価基準」を踏まえた内部質
保証のための取り組みの推進

ア 内部質保証システムの検証および見直し

- a 実施体制の検証および見直し
 - b 第三者の意見を反映させるための仕組みの構築
- 全学的な教学マネジメント体制を構築し、改革サイクルの確立に資するため、「短期大学運営会議」の任務等の見直しを行い、所要の規程整備等を実施した。また、「短期大学評価基準」への対応等に向けた今後の作業日程(目安)を策定した。

イ 教育プログラムの質保証に向けた取り組み

- a 適切な教育プログラムの編成・実施(3つのポリシーおよび教育課程の点検・見直し)
- 短期大学全体および各学科において点検・評価活動に取り組んだ。具体的には、教育、研究、学生対応、教員、教員組織等の項目別に当年度の実現計画を策定し、適時対応状況を確認するとともに、改善策を検討した。また、3つのポリシーおよび教育課程の点検・見直しについては、「学校教育法施行規則第165条の2」に対応すべく、重点的に取り組んだ。
- b 教員の資質向上のための取り組み(FDの実質化等)
- 一般財団法人全国大学実務教育協会「能動的学修の教員研修リーダー講座」に本学教員(1名)を派遣した。また、「2017年度FD研究会」(2018年3月開催)では、

同講座参加教員による報告を通じて研修の成果を学内に還元するとともに、アクティブ・ラーニングに関する情報の共有、認識の確立等に取り組んだ。

c 学習成果の保証に向けた学習目標の明確化

短期大学全体および各学科における点検・評価活動、および教務委員会等による(統一されたマニュアルに基づく)各授業科目のシラバスチェック等を通じて、学習成果の保証に向けた学習目標の明確化に取り組んだ。また、これらをより一層推進するため、「履修系統図」の作成にも取り組んだ。

03 教育研究活動の活性化に
向けた外部資金獲得の促進

科学研究費助成事業については、制度等説明会の開催、個別相談等を通じて、申請の支援および奨励等に取り組んだ。学内研究助成では、研究代表者として科学研究費助成事業へ申請し不採択となった研究で、次年度に同様の申請を行う研究を支援するための研究種目(特別奨励研究助成)を設けている。

04 学生に寄り添う教育を指向した
大学教員の勤務態様の見直し

「大学教員の勤務および服務規程」について、大学教員の職務、授業担当時間数、学外勤務および兼職等に関する規定の見直しを行い、所要の改正を実施した。

学生支援

01 学修支援を推進する
サポート体制の充実

ア 基礎学力補完のための取り組み

イ 学習時間の確保(学生の学習努力の促進)の
ための取り組み

e ラーニング教材の導入

入学前教育、初年次教育、就職試験対策に関する各教材(eラーニング教材)として「竹びとラーニング」を導入し、学習段階に応じた学生の基礎学力の強化に向けた取り組みを推進するとともに、就職試験対策の充実に取り組んだ。また、入学前課題への取り組み等を通じた学習到達度の把握、基礎能力向上支援のための指導、成果測定のための実力診断テスト等においても「竹びとラーニング」を活用するなどし、内容の充実に取り組んだ。

02 課外活動への支援の充実

- ・ 新入生ガイダンス期間中に学生主導によるサークル紹介を前年に引き続き実施した。
- ・ 学生団体に関する規程整備を行い、本学の名を高める活動を積極的に支援していくことが明確になった。

03 キャリア支援プログラムの充実

キャリア支援センターで次の就職活動支援事業を実施した。

- ・ 就職ガイダンス(学科別に実施)
- ・ 就職セミナー(自己分析、履歴書等対策、面接・グループディスカッション対策、メイク講座など)
- ・ 業界職種セミナー(学内業界・企業研究会、企業研究セミナー、業界見学バスツアーなど)
- ・ 学内合同企業説明会

ア インターンシップの推進

- ・ インターンシップガイダンス(受入先の探し方、応募方法、社会人として必要なマナー研修)

イ 就職試験対策の充実

- ・ 企業、公務員試験対策講座

学生募集

01 広報活動の充実

[大学に含めて記載]

02 常磐大学高等学校、
智学館中等教育学校との
連携強化

[大学に含めて記載]

03 入試制度の点検および見直し
(インターネット出願導入の検
討を含む)

短期大学入試委員会において、各入試制度実施後に確認された改善点を基に、翌年度の入試実施に向け次のとおり検討した。

2017年度 事業概要

Achievement Report 2017

- ・AO入試において、以下のとおり変更した。
 - (1) 入試日程
合格までの期間を短縮する。
 - (2) Ⅲ期の対象学科追加
2018年度入試まで、Ⅲ期はキャリア教養学科のみ実施していたが、2019年度入試からは幼児教育保育学科も実施する。
- ・卒業生推薦入試（卒業生子女入試から名称変更）の推薦条件について
推薦者の条件を拡大し、常磐大学、常磐短期大学、常磐大学高等学校、智学館中等教育学校の卒業生の親族（3親等以内）とした。
- ・音楽の進捗状況確認（幼児教育保育学科のみ）について
2018年度入試まで、幼児教育保育学科では「音楽実技検査」としてピアノと声楽の両方を行っていたが、2019年度入試からは「音楽の進捗状況確認」として、志願（参加）者がピアノまたは歌唱のどちらか一方を選択して行うこととした。これは、高度な技術や専門性を求めるものではなく、保育に必要とされる音楽の進捗状況を確認することを目的とし、なお、確認した内容は、入学前教育の実施方法や入学後の授業展開に活用する。
- ・各入試の出願期間、試験日、入学手続き期間等について、他大学との日程等と調整をし、見直しを図った。
- ・WEB出願の導入については、かねてより検討を進めており、2019年度募集活動より全ての入試制度において実施することとした。

地域連携・国際交流

01 地域における課題解決のための取り組みの推進

ア「私立大学等改革総合支援事業 タイプ2: 特色を発揮し、地域の発展を重層的に支える大学づくり」採択に向けた取り組み

- 地域課題の解決に向けた教育研究の推進
 - ・茨城県社会福祉協議会「茨城県子育て支援研修」へ講師として、大学および短期大学の教員派遣
 - ・連携自治体等への委員および講師派遣
 - ・オープンカレッジ特別講座「水戸刀の魅力」開催
- 地域の自治体、産業界等との連携の推進
 - ・一般社団法人茨城県経営者協会との「産学連携講座」の開講
 - ・常磐大学&水戸ホーリーホックコラボデーの開催
 - ・地域連携センター運営会議の下に地域意見交換会を設置（実績 笠間市）
 - ・自治体等への学生ボランティアの派遣
 - ・自治体等と連携した学生プロジェクト活動継続

イ COCプラス採択事業「茨城と向き合い茨城に根ざし、未来を育む地域協創人材養成事業」の推進

- ・業界見学バスツアーの実施
- ・業界企業研究・インターンシップ促進イベントの実施
- ・業界企業研究会「OB・OG on Campus」の実施

ウ 社会安全政策研究所の設置

[大学に同じ]

02 海外研修・交換留学プログラムの充実

ア 海外研修プログラム

- ・海外研修（アメリカ）カリフォルニア大学アーバイン校
2月4日～3月4日（29日間）参加1名
- ・海外研修（フィリピン）バゴ市立大学
2月11日～2月24日（14日間）参加1名

イ 常磐大学交換留学生との交流

常磐大学交換留学生との英会話交流活動（English Connections）、国際交流企画サポーター活動、国際交流パーティー等を実施した。また、2名の学生が国際交流会館に入居し、交換留学生と共同生活を送りながら、生活のサポート、文化交流の役割を担った。「常磐大学・常磐短期大学 学生および教職員の海外における事故等緊急事態対応マニュアル」の整備



施設設備

[常磐大学との共通部分については、常磐大学に含めて記載]

01 キャンパスの環境整備（N棟（4階研究室）空調設備更新、L棟研究室更新、D・L棟トイレ改修）

学生および教職員にとって、より良い教育・研究環境を実現するためにキャンパスの各環境整備を実施した。また、今後年次計画的に環境整備を実施する。

○N棟（4階研究室）空調設備更新工事、L棟研究室更新工事 [953,484円]

経年により劣化した各階の空調機のうち、N棟4階研究室の更新工事を実施した。また、併せてL棟研究室の更新工事を実施した。

○D・L棟トイレ改修工事 [862,920円]

D棟1階およびL棟1階トイレの温水洗浄便座化改修工事を実施した。

常磐大学高等学校

教育・学習支援

01 学習支援・進路支援の充実

- ・全学年・コースで校外模試を実施し、自分の学習定着度を確かめ、PDCAの確立を目指した。
- ・スクールタイマーを全クラスに設置し、時間を意識した学習活動を行った。
- ・各学年各コースの代表者を構成員とした進路支援会議を月1回の頻度で開催し、活発な意見を交わし、情報の共有に努めた。

02 常磐大学・常磐短期大学との連携の更なる強化

- ・6月に常磐大学への留学生（ランガラカレッジ（カナダ）・カリフォルニア州立大学フレズノ校（アメリカ）各15名程度を英語の授業等で受け入れ、異文化交流を行った。
- ・EC活動も定着し、毎年30名程度の生徒が、同年代の留学生徒との会話を通して、英語のスキルアップを図った。
- ・常磐大学幼稚園にて1年生40名が2日間に分かれてインターンシップを実施した。また、春休みを利用して1・2年生22名が預かり保育ボランティア活動を実施した。
- ・常磐大学・常磐短期大学が実施するときわ祭でボランティア活動をする生徒も40名にのぼり、年々増加傾向にある。
- ・年12回の大学特別講座（3年常磐大コース生徒対象）に加え、高大連携の一環として実施された常磐大学教員による探究活動支援（1年特別選抜コース生徒対象）が引き続き行われた。
- ・夏季休業中に、常磐大学教員による面接対策講座（3年生対象）が行われ、約100名の生徒が参加した。

03 特進選抜コースにおける指導体制の確立

- ・1年生の探究活動については、初年度の活動を振り返り、改善に努めた。2年生では生徒が自らの興味・関心から設定したテーマに沿った研究活動を約1年間行い、成果を論文にまとめた。また校外活動として、茨城大学や筑波大学を見学し、茨城学生国際会議へ参加した。探究活動を深化させ、生徒の資質・能力の向上につなげるためにも、ルーブリック評価の見直しなど、指導体制の検証を継続していく。

04 教員力の向上（教員の研修参加後の報告会の実施）

- ・京都堀川高校教育研究会の参加報告を受け、本校でも教員全員で「目指す生徒像」について考え、意見を出し合った（「考え 挑み続ける」に決定）。
- ・次期学習指導要領・新テストに向けての研修を重ねた。カリキュラム・マネジメントの視点を持ち、今何をすべきか学校全体で考え、取り組みを始めた。

05 主体的・協働的な学び「アクティブラーニング」の実践

- ・教員向けeラーニング教材「Find! アクティブラーナー」を導入し、全教員が閲覧可能な環境を構築することで、教員の授業スキルアップを図った。
- ・「RPDCAサイクルー学力向上検証授業改善サイクル」により教員が学び合う授業を目指し、これまでの研修を生かし、アクティブラーニングを取り入れた授業展開を工夫し、全教員が互見できる公開授業を行った。

生徒の自律的活動の推進と国際交流

01 生徒総会の実施など自律的な生徒会活動の活性化

- ・生徒会役員の発案で意見箱を設置し、生徒の声を年2回の生徒総会に反映させることができた。
- ・生徒部と生徒会役員との話し合いも行われ、生徒自身が生徒主体の活動を意識することができた。

2017年度 事業概要

Achievement Report 2017

02 ボランティア活動の発展

- ・水戸梅まつり開催時期に偕楽園で外国人を対象に英語で観光案内をするなど、水戸市が中心となり行っている諸活動（水戸まちなかフェスティバル・こみっとフェスティバル・元旦マラソン書道パフォーマンス・あじさいまつり野点茶会等）にて、部活動を中心にボランティア活動を行った。
- ・水戸ホーリーホックやサイバーダイナミクス茨城口ポッツなどのスポーツ団体との交流を通して、自発的に活動する機会をいただき、地域との連携がより密になった。



03 職場体験プログラムの継続発展

- ・水戸ロータリークラブの協力によるインターンシップを1年生の3学期に継続実施した。積極的な参加を促したことで、大変熱心な参加者が多かった。
- ・看護・医療系への興味・関心が高まり、病院等での看護体験をする生徒や、理系の進学Bコースを希望する生徒が大幅に増えた。

04 部活動の更なる活性化

- ・年度初めの部活動紹介が充実し、部活動加入者の割合は前年同様に70%を超えた。
- ・部活動壮行会や部活動引き継ぎセレモニーが活発化し、部員の意識も高まっている。
- ・部活動ごとおよび合同発表会等、自主的な発表活動が盛んになってきた。



05 海外研修制度の充実

- ・2017年度は、カナダ3カ月語学留学参加者8名、カナダ10日間語学研修参加者14名と過去最高の参加者数となった。ハリー・エインリー高校との連携強化を図り、実施内容を十分に検証し、次の年に生かすことができている。
- ・特進選抜コース1年次のオーストラリア研修では、シドニーのマコーリー大学での特別英語プログラムをはじめ、日立シドニーオフィスやオーストラリア博物館への訪問、ペンリス湖における環境学習など、生徒の視野を広げる研修となった。また、現地学校との交流では、全校生徒を前にした英語での日本文化プレゼンテーションを行い、好評を博した。



生徒募集の強化

01 確かな基礎学力を有し、学ぶ意欲の高い受験生の確保

- ・本校で開催するオープンスクール・学校説明会と中学校に出向いて行われる説明会で、本校の教育活動を受験生に紹介した。

○過去3年間のオープンスクール・学校説明会参加者の推移

年度	2017年度	2016年度	2015年度
夏季	1,987名	1,967名	1,864名
秋季	446名	445名	175名
合計	2,433名	2,412名	2,039名

- ・ホームページの更新を頻繁に行い、常に新しい情報発信に努めた結果、アクセス数が増加した。

○過去3年間の月間平均アクセス数

年度	2017年度	2016年度	2015年度
アクセス数	21,720件	20,782件	19,473件

- ・確かな学力を有し、学ぶ意欲の高い受験生の確保を目指して広報活動を行った。その結果、志願者数は2,000名を超える数を確保しつつ、全志願者の評定平均値は年々上昇している。

02 適正な入学者数確保のための検討

- ・合否判定の際、合格基準をこれまでより高く設定し、本校の目指す生徒像にかなう入学生の確保と適正な定員管理を実現させた。

施設設備

01 校内環境充実のための施設整備

- CALLシステムの更新 [8,231,289円]
導入後6年の経過により障害発生率が上昇していたCALLシステムを更新した。バックアップ環境も向上し、障害発生時の復旧に要する時間の短縮化を実現した。また授業への影響を最小限にとどめるための保守性を向上させた。

- 調理室設備の更新 [6,733,800円]
経年劣化により多数の故障箇所が散見されていた調理室器具の安全性の担保ならびに授業効率の向上を図るため、調理台等の調理設備を更新した。

- 美術室什器の更新 [1,085,400円]
美術室の環境充実のため、生徒用の机を更新した。

- 校内Wi-Fi環境の整備検討
これからの教育活動には、「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な深い学び」とICTツールの活用は必要不可欠である。校内Wi-Fi環境等インフラ面の整備計画と教育内容等ソフト面の検討の双方について、引き続き検討する。

- 購買部設置の検討
生徒からの多様なニーズへの対応は、現購買部の拡張なしには実現しない。新たな機能を有した購買部について、設置の場所等も含めて引き続き検討する。

- 既存施設的环境整備検討
全校生徒数の増加に伴うクラス数の増加により、2室の特別教室を普通教室として活用した。全コース全学年で選択授業が実施される2018年度以降、教育課程を実現していくにあたっては、選択教室数の不足が懸念されることから、現状の既存施設の利用計画を再検討し、新たに5室の特別教室（選択教室）の創出計画を立てた。また生徒数に対して保健室の面積が不足している点や近年の保健室利用者数も増加している点、さらには体調不良者が訪れる場所であることを考慮し、保健室の移設改修計画を検討した。

智学館中等教育学校

教育・学習支援

01 英語環境日常化の推進

- ・All English授業の展開と英語イベントへの積極的参加
1・2年次の授業には日本人教員とNETがチームティーチングを行い、英語を聞いたり話したりする機会を多く設けた。3・4・5年次の授業ではNET主導の授業を週2時間行い、英語によるプレゼンテーション等を通して英語力を高められた。また、インタラクティブフォーラムやTOKIWA高校生英語プレゼンテーションコンテスト等に参加した。
- ・国際交流語学学習センターとの連携および本校独自の留学プログラムの構築
旅行企画業者を通じて本校独自の留学プログラムの検討を行ったが、催行に必要な人数確保は難しいと判断した。常盤大学・常盤短期大学のイギリス研修プログラムや常盤大学高等学校のカナダ語学研修・留学プログラムに本校生徒が参加する方向で検討を始めた。

02 学力向上システムの徹底化（教育課程・学習指導・教科間連携）

- ・「特別トップ講座」の開設および習熟度別授業体制の徹底化
成績上位者を集めた「特別トップ講座」は開講には至らなかったが、国語・数学・英語では習熟度別授業を徹底し、実力差の大きい生徒たちそれぞれに対応しやすい授業環境を整えた。また、放課後ゼミでは年次を超えた級別英検対策講座等を設け、生徒たちのニーズに応えた。
- ・教員研修の充実（次期学習指導要領を踏まえた教師力の向上）
外部講師を招き、アクティブラーニングの手法に関する理解を深めるための勉強会を実施した。勉強会で得られたことを生かすために、教科ごとに研究授業・反省会を実施した。

03 6年一貫のプロジェクト法による探究学習の実践

- ・海外・国内研修旅行の体系化
1期生より、4年次に海外研修旅行（アメリカ東部）、5年次に国内研修旅行（奈良・京都）を実施してきたが、海外研修旅行までの英語学習期間を延長することで、より有意義な研修が実施できるように、8期生より4年次に国内研修旅行、5年次に海外研修旅行へと変更した。

2017年度 事業概要

Achievement Report 2017

- ・学校設定科目(理科探究等)への取り組み
探究活動の一環として、1・2年次の理科授業内での実験レポートの作成や「夏休みの自由研究」(1年次:ポスター発表・2年次:PowerPointにより発表)を実施した。学校設定科目としての位置づけは継続検討とした。



地域連携・国際交流

01 地域力を生かした スペシャリスト講演会の実施

さまざまな進路希望や職業等に対応した専門的な分野の研究、スポーツ・芸術の技能向上、各種コンテストへの挑戦、推薦・二次試験対策等、将来を見据えた講座を開講し、一人ひとりの個性豊かな才能を伸ばさせることを目的として、スペシャリスト講演会を実施した。

【第1回スペシャリスト講演会(2017年11月25日)】

講師 飯塚 哲哉氏

(ザインエレクトロニクス株式会社代表取締役会長)

講演内容『新しい世界へ挑め ～ベンチャーという挑戦～』

【第2回スペシャリスト講演会(2018年1月27日)】

講師 植木 浜一氏(水戸医療センター名誉院長)

講演内容『これから生きる中高生に期待すること
～医学のすすめ～』

02 ユネスコスクール(申請中)を 活用した国際理解教育の展開

バンコク市ウドムスクサー・スクールとの交流の可能性を検討した。また、総合学習において4年次海外研修旅行に関連付けた探究学習を実施した。

03 自立型インターンシップの 実施

3・4年次において、インターンシップ先に生徒自らが電話をして交渉し、夏季休業期間に実施した。インターンシップ先はホテル・旅行会社・ガソリンスタンド・幼稚園等と多岐にわたった。

生徒募集の強化

01 校長直轄による広報活動 および全員広報体制の確立

校長の意向を入試広報部が速やかに反映できるようにスムーズな連携に努めた。また、管理職者と入試広報部全員体制での小学校訪問や学習塾訪問を効率よく行うことができたが、前年度の入学者数を下回る結果となった。

02 未受験者層の開拓

- ・ホームページ等の情報発信の強化
学校行事・部活動・授業風景の様子等、ダイレクトに知りたい情報へアクセスできるようにホームページの操作性を向上させ、フェイスブックへの情報発信も迅速に行った。また、広報イベントに参加した保護者のメールにも個別対応し、情報提供に努めた。
- ・小学校、学習塾への広報活動の強化および学校行事等への参加促進
水戸地区・ひたちなか地区を中心に、小学校や学習塾への積極的な広報活動を展開し、智学館フェスティバルや天体観測会等の行事への参加促進も行った。更に学習塾の入試説明会にも参加し学校PRに努めた。
- ・ネイティブ教員の広報活動への活用
学校説明会やオープンスクールにおいて、本校と常磐大学のNETによる小学生対象の英会話講座を設け、小学生が英語に興味を持つような機会を多く提供した。

03 10周年記念事業を活用した 広報活動の強化

入試広報部が10周年記念事業の一環として10周年記念動画の作成に携わった。また、10周年記念式典を兼ねた智学館フェスティバルの招待状を小学校に配布し、小学生の参加を促した。



施設設備

01 ICT教育環境整備の検討

ICT導入を検討する教務部や有志教員によるICT教育関係研修会への参加や、電子黒板・教務システム・PC端末等の業者によるデモを実施した。各種情報収集をしながら、2019年度導入に向けて、本校にふさわしいICT教育環境について検討した。

常磐大学幼稚園

教育

01 プロジェクト型保育および 環境教育の拡充

- ・園内研究会を開催した。
- ・稲作り、野菜作りへ積極的な園児の参加を促した。
- ・ホテルの飼育・観察と水生植物園の保全を実施
冬期に水槽でホテルを飼育し生態の観察を行った。また、保育活動の中に水生植物園の清掃活動を取り入れ、今後の保育にもつながるような保全活動を実施した。



02 異年齢集団の交流機会の増大

- ・年長組においては、水戸市立常磐小学校1年生との幼小交流会を企画し、参加することができた。また、園内においても学年を超えたプログラムを設定(お店やさんごっこ、おわかれ会、おやつ・お弁当交流会等)し、異年齢の交流を活発に行った。



03 英語に親しむ機会の拡充

- ・才能発見プログラム「わくわくチャレンジ」の1つである「ハローイングリッシュ」は、これまで年中組、年長組で活動を行ってきたが、英語に親しめるよう、年少組においても2017年度は初めて英語遊びのプログラムを体験させることができた。

園児募集の強化

01 通園バス1台増車を想定した、 遠方(吉田、笠原方面)からの 園児確保の可能性に関する検討

- ・4コースのうち1コースについて、駅南方面にルートの拡充を図った。

02 2号認定児に提供する 自前の給食回数の増加

- ・給食を長期休園日にも提供し、支援の向上を図った。

施設設備

01 保育室の照明器具のLED化

- ・一部照明の交換を実施した。(ふじ組・しらかば組)

02 ときわの森斜面の杭の交換

- ・一部杭の交換を実施した。

03 園庭ウサギ小屋の撤去

- ・撤去を実施した。

財務状況

Financial Report

学校法人会計について

学校法人の目的は、学校を運営して教育・研究等の諸活動を遂行することであり、営利や利潤の追求を目的とする企業会計とはその性質が異なります。

企業会計では、売上と費用から利益を明らかにすることが求められていますが、学校会計では、収入をいかに効率的にかつ適切に教育・研究等の諸活動に充当したかを明らかにすることが求められています。

学校法人の目的もさることながら、学校法人の収入の大部

分が、学生生徒等納付金や国や地方公共団体などからの補助金等で成り立っていることから、在学生や保護者をはじめステークホルダーに対し、財務状況および財政状態を開示、説明する必要があります。

このため、学校法人では、「学校法人会計基準」に基づき会計処理を行い、財務計算に関する書類（「資金収支計算書」「事業活動収支計算書」「貸借対照表」）を作成することが義務付けられています。

2017年度決算について

財産目録 2018年3月31日

財産目録は2017年度末における本学の財産と債務を記載した目録です。2017年度の資産総額は271億円、負債総額は17億円で正味財産は253億円となっています。

(単位:千円)

		区分	金額
資産額	基本財産	土地	4,626,933
		建物	13,215,911
		機器備品	427,128
		図書	2,264,541
		車 輛	710
	運用財産	その他	25,265
		現金預金	5,807,412
		特定資産	499,039
		その他	239,550
		資産総額	27,106,493
負債額	固定負債	長期借入金	0
		退職給与引当金	733,957
	流動負債	短期借入金	0
		その他	1,056,739
		負債総額	1,790,696
正味財産(資産総額-負債総額)			25,315,797

※百円の位を切り捨てし、千円単位で表記

貸借対照表 2018年3月31日

貸借対照表は、学校法人の年度末の財政状態を表します。資産の部は、学校法人の所有する財産を示し、負債および純資産の部は、財産の調達財源を示します。本学の2017年度末の資産規模は271億円で、前年度より140万円の減少となりました。

(主要な増減科目)

- ・「有形固定資産」については、償却資産の除却処理(見和キャンパス旧体育館解体)および減価償却等による減少がありますが、土地(見和キャンパス)や図書、備品においては増加となっています。
- ・「流動資産」については、現金預金(繰越支払資金)において増加となっています。

(単位:千円)

区分	2017年度末	2016年度末	増 減
有形固定資産 貸借対照表日後1年を超えて使用される資産で、土地、建物、構築物、教育研究用・管理用機器備品、図書、車輦など			
固定資産	21,059,530	21,442,043	△ 362,512
有形固定資産	20,535,225	20,897,125	△ 361,899
土地	4,626,933	4,592,587	34,346
建物	12,606,832	13,000,965	△ 394,133
構築物	609,079	652,079	△ 43,000
教育研究用機器備品	401,743	395,083	6,659
管理用機器備品	25,385	30,600	△ 5,215
図書	2,264,541	2,225,097	39,444
車 輛	710	710	0
特定資産	499,039	499,039	0
第2号基本金引当特定資産	497,839	497,839	0
第3号基本金引当特定資産	1,200	1,200	0
その他の固定資産	25,265	25,879	△ 613
借地権	15,562	15,562	0
電話加入権	5,017	5,017	0
施設利用権	4,685	5,298	△ 613
流動資産	6,046,963	5,685,852	361,110
現金預金	5,807,412	5,413,313	394,099
未収入金	221,976	257,460	△ 35,483
前払金	17,573	15,078	2,495
資産の部合計	27,106,493	27,107,895	△ 1,402
負債の部			
固定負債	733,957	722,927	11,029
退職給与引当金	733,957	722,927	11,029
流動負債	1,056,739	801,901	254,838
未払金	225,885	64,782	161,102
前受金	830,853	737,118	93,735
負債の部合計	1,790,696	1,524,828	265,867
純資産の部			
基本金	36,023,474	36,083,506	△ 60,032
第1号基本金	35,140,909	35,200,942	△ 60,032
第2号基本金	497,839	497,839	0
第3号基本金	1,200	1,200	0
第4号基本金	383,525	383,525	0
繰越収支差額	△ 10,707,676	△ 10,500,439	△ 207,237
翌年度繰越収支差額	△ 10,707,676	△ 10,500,439	△ 207,237
純資産の部合計	25,315,797	25,583,066	△ 267,269
負債及び純資産の部合計	27,106,493	27,107,895	△ 1,402

※百円の位を切り捨てし、千円単位で表記

財務状況

Financial Report

2017年度決算について

資金収支計算書 2017年4月1日から2018年3月31日まで

資金収支計算書は、学校法人の1年間の活動に対応する収入と支出の内容と支払資金の顛末を表します。2017年度の資金収支規模は、110億3千万円となり、主な収入項目としては学生生徒等納付金収入38億9千万円、補助金収入9億4千万円、

前受金収入8億3千万円などがあり、支出項目としては人件費支出31億3千万円、教育研究経費支出12億4千万円、管理経費支出4億4千万円などがあります。翌年度への繰越支払資金は、前年度より3億9千万円増加し、58億円となりました。

収入の部		(単位:千円)		
科目	2017年度予算	2017年度決算	差異	
補助金収入 <small>国や地方公共団体からの補助金など</small>				
学生生徒等納付金収入	3,926,222	3,897,762	28,459	学生生徒等納付金収入 <small>授業料、入学金、実験実習料、施設拡充費など</small>
手数料収入	89,877	97,009	△7,132	
寄付金収入	9,600	14,667	△5,067	
補助金収入 (国庫補助金収入)	902,712	941,709	△38,997	
(地方公共団体補助金収入)	323,995	322,104	1,891	
(施設型給付費収入)	509,494	543,441	△33,947	
資産売却収入 (国庫補助金収入)	69,223	76,164	△6,941	
資産売却収入	0	50	△50	
付随事業・収益事業収入	87,988	80,028	7,959	
受取利息・配当金収入	695	639	55	
雑収入	114,191	165,976	△51,785	前受金収入 <small>翌年度の学生生徒等に係る授業料、入学金、実験実習料、施設拡充費など</small>
借入金等収入	0	0	0	
小計	5,131,285	5,197,844	△66,559	
前受金収入	797,860	830,853	△32,993	
その他の収入	557,460	557,460	0	
資金収入調整勘定	△886,908	△963,094	76,185	前年度繰越支払資金 <small>前年度末時点での現預金の残高</small>
前年度繰越支払資金	5,413,313	5,413,313		
収入の部合計	11,013,011	11,036,378	△23,366	

支出の部		(単位:千円)		
科目	2017年度予算	2017年度決算	差異	
管理経費支出 <small>教育研究以外の活動のために支出する経費</small>				
人件費	3,091,484	2,984,734	106,749	教育研究経費支出 <small>教育研究活動のために支出する経費(学生生徒等を募集するために支出する経費を除く)</small>
退職金支出	95,250	151,721	△56,471	
教育研究経費支出	1,351,578	1,242,370	109,207	
管理経費支出	461,997	441,957	20,039	
借入金等利息支出	0	0	0	
借入金等返済支出	0	0	0	
施設関係支出	166,284	163,953	2,330	設備関係支出 <small>教育研究用・管理用機器備品、図書、車輛など</small>
設備関係支出	110,050	102,835	7,214	
資産運用支出	300,000	300,000	0	
小計	5,576,643	5,387,572	189,070	
その他の支出	83,793	82,356	1,437	
[予備費]	(0)			
資金支出調整勘定	30,000	30,000		
資金支出調整勘定	△160,828	△240,963	80,135	
翌年度繰越支払資金	5,483,402	5,807,412	△324,009	
支出の部合計	11,013,011	11,036,378	△23,366	

※百円の位を切り捨てし、千円単位で表記

活動区分資金収支計算書 2017年4月1日から2018年3月31日まで

活動区分資金収支計算書は、学校法人会計基準の改正に伴い、資金収支計算書に追加して、新たに作成することになった計算書類です。資金収支計算書を「教育活動による資金収

支」「施設整備等活動による資金収支」「その他の活動による資金収支」の3つの活動に区分し、それぞれの活動での収支を明らかにします。

科目		金額
教育活動による資金収支	収入	
	学生生徒等納付金収入	3,897,762
	手数料収入	97,009
	特別寄付金収入	9,394
	経常費等補助金収入	940,969
	付随事業収入	80,028
	雑収入	165,976
	教育活動資金収入計	5,191,141
	支出	
	人件費支出	3,136,455
教育研究経費支出	1,242,370	
管理経費支出	441,957	
教育活動資金支出計	4,820,783	
差引	370,358	
調整勘定等	284,288	
教育活動資金収支差額	654,647	
施設整備等活動による資金収支	収入	
	施設設備寄付金収入	5,273
	施設設備補助金収入	740
	施設設備売却収入	50
	第2号基本金引当特定資産取崩収入	300,000
	施設整備等活動資金収入計	306,063
	支出	
	施設関係支出	163,953
	設備関係支出	102,835
	第2号基本金引当特定資産繰入支出	300,000
施設整備等活動資金支出計	566,789	
差引	△260,726	
調整勘定等	△538	
施設整備等活動資金収支差額	△261,264	
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	393,382	
その他の活動による資金収支	収入	
	受取利息・配当金収入	639
	その他の活動資金収入計	639
	支出	
	その他の活動資金支出計	0
差引	639	
調整勘定等	76	
その他の活動資金収支差額	716	
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	394,099	
前年度繰越支払資金	5,413,313	
翌年度繰越支払資金	5,807,412	

※百円の位を切り捨てし、千円単位で表記

教育活動資金収支差額
教育活動による資金収支では、本業である教育活動のキャッシュベースでの収支状況を見ることができます。「教育活動」でどのくらいキャッシュを生み出せるかが重要となります。

施設整備等活動資金収支差額
施設整備等活動による資金収支では、当該年度に施設設備の購入がどれだけあり、財源がどうであったかを見ることができます。

その他の活動資金収支差額
その他の活動による資金収支では、借入金の収支、資金運用の状況など、主に財務活動を見ることができます。

財務状況

Financial Report

2017年度決算について

事業活動収支計算書 2017年4月1日から2018年3月31日まで

事業活動収支計算書は、学校法人の1年間における諸活動（「教育活動」「教育活動以外の経常的な活動」「前記以外の活動」）に対応する事業活動収入および事業活動支出の内容とこれらの均衡の状態を表します。2017年度の事業活動収入は52億円、事業活動支出は54億7千万円で、2億6千万円の支出超過となりました。

科目		2017年度予算	2017年度決算	差異	
教育活動収支	事業収入の部	学生生徒等納付金	3,926,222	3,897,762	28,459
		手数料	89,877	97,009	△ 7,132
		寄付金	7,900	9,432	△ 1,532
		経常費等補助金 (国庫補助金)	902,512	940,969	△ 38,457
		(地方公共団体補助金)	323,995	322,104	1,891
		(施設型給付費)	509,294	542,701	△ 33,407
		付随事業収入	69,223	76,164	△ 6,941
		雑収入	87,988	80,028	7,959
		雑収入	114,191	165,976	△ 51,785
		教育活動収入計	5,128,690	5,191,180	△ 62,490
	事業支出の部	給与 人件費 退職金等	3,091,484	2,984,734	106,749
		教育研究経費 (減価償却額)	117,959	162,750	△ 44,791
		管理経費 (減価償却額)	1,942,182	1,775,000	167,181
		徴収不能額等	590,604	532,590	58,013
徴収不能額等		538,314	521,148	17,165	
徴収不能額等		76,317	79,191	△ 2,874	
教育活動支出計	0	3,999	△ 3,999		
教育活動収支差額	△ 561,249	△ 256,451	△ 304,797		
教育活動外収支	事業収入の部	受取利息・配当金	695	639	55
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	695	639	55
	事業支出の部	借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0
教育活動外収支差額	695	639	55		
経常収支差額	△ 560,554	△ 255,812	△ 304,741		
特別収支	事業収入の部	資産売却差額	0	50	△ 50
		その他の特別収入 (施設設備寄付金)	1,900	11,957	△ 10,057
		(施設設備補助金)	1,700	5,273	△ 3,573
		特別収入計	200	740	△ 540
	事業支出の部	資産処分差額	1,900	12,007	△ 10,107
		その他の特別支出	26,636	23,464	3,171
		特別支出計	0	0	0
		特別支出計	26,636	23,464	3,171
		特別収支差額	△ 24,736	△ 11,457	△ 13,278
		[予備費]	(0)		30,000
基本金組入前当年度収支差額	△ 615,290	△ 267,269	△ 348,020		
基本金組入額合計	△ 389,272	△ 362,199	△ 27,072		
当年度収支差額	△ 1,004,562	△ 629,469	△ 375,092		
前年度繰越収支差額	△ 10,500,439	△ 10,500,439	0		
基本金取崩額	412,356	422,232	△ 9,876		
翌年度繰越収支差額	△ 11,092,645	△ 10,707,676	△ 384,968		
事業活動収入計	5,131,285	5,203,827	△ 72,542		
事業活動支出計	5,746,575	5,471,096	275,478		

※百円の位を切り捨てし、千円単位で表記

教育活動収支差額
教育活動収支では、経常的な収支のうち、本業の教育活動の収支状況を見ることができます。

教育活動外収支差額
教育活動外収支では、経常的な収支のうち、財務活動による収支状況を見ることができます。

経常収支差額
経常収支差額では、経常的な収支のバランスを見ることができます。

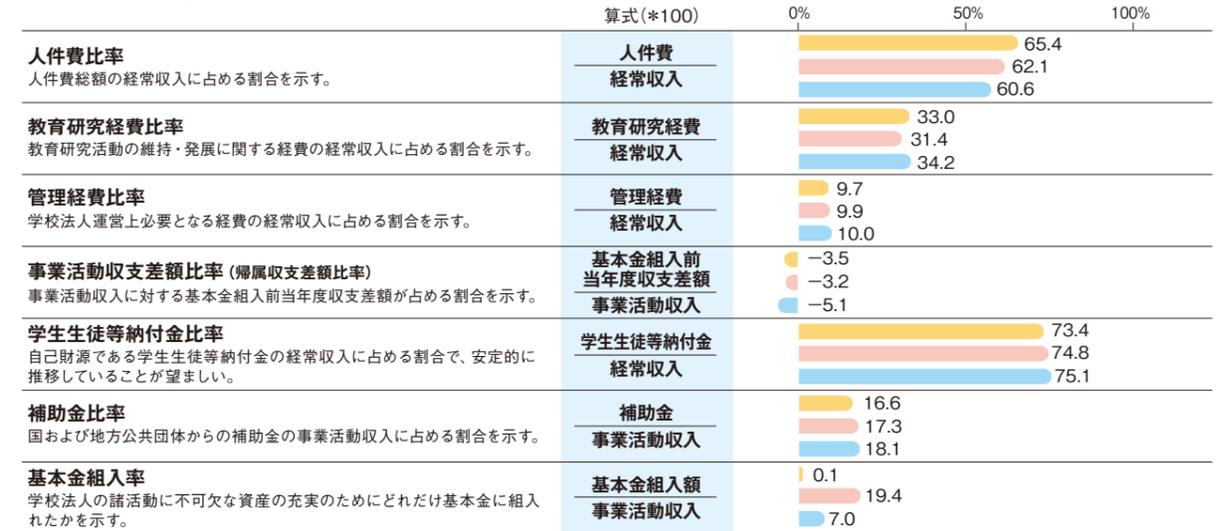
特別収支差額
特別収支では、資産売却や処分等の臨時的な収支を見ることができます。

基本金組入前当年度収支差額
基本金組入前当年度収支差額では、毎年度の収支バランスを見ることができます。従来の帰属収支差額に相当します。

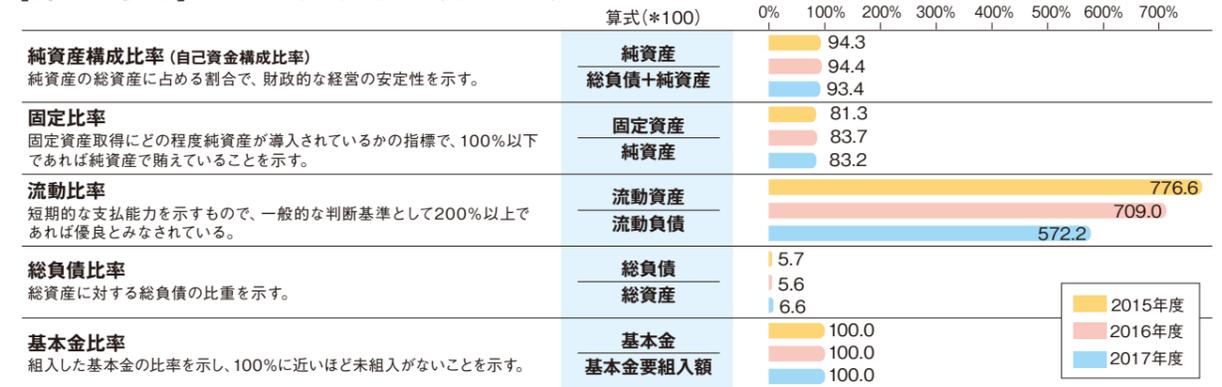
当年度収支差額
当年度収支差額は、従来の消費収支差額に相当します。

各種比率等一覧

【経営の状況】事業活動収支計算書関係比率（法人全体）



【財政の状況】貸借対照表関係比率（法人全体）



財務状況総括

2017年度決算における事業活動収支では、事業活動全体において、事業活動収入計が52億円、事業活動支出計が54億7千万円となり、基本金組入前当年度収支差額（従前の帰属収支差額）は2億6千万円の支出超過となりました。

事業活動収入での予算対比では、自己財源である学生生徒等納付金収入が予算額を下回ったものの、手数料収入や補助金収入など教育活動収入での増収や特別収入での施設設備寄付金等もあり、予算額を上回る事業活動収入となりました。事業活動支出では、各所改修工事や大規模修繕、パソコン教室の更新など、多くの経費を投入しましたが、継続的な経費抑制の実施もあり、主要項目である人件費や教育研究経費、管理経費では予算額を下回り、事業活動支出で2億7千万円の減額となりました。

予算対比での事業活動収支差額の改善は図れましたが、決算における均衡状況は支出超過となり、引き続き課題を残す結果となりました。一方で、本学は1997年度以降借入金なしでの経営を継続しており、総合的な財務比率において、総負債比率6.6%（前年度5.6%）、固定比率83.2%（前年度83.7%）、短期的支払能力を示す流動比率572.2%（前年度709.0%）、経営の安定性を示す純資産構成比率93.4%（前年度94.4%）から見ると健全な経営が行われているといえます。

本学では、更なる支出の適正管理を図るとともに、社会環境の変化や学校法人の社会的使命を再認識し、教育環境の維持、地域貢献につながる優れた研究の推進を実現するために、今後も健全で持続性のある財務基盤の確立を目指して取り組む所存です。

入試状況

Entrance Examination Results

2018年度 常磐大学大学院 入試結果

研究科	入学定員	志願者	受験者	合格者
人間科学研究科博士課程(後期)	2	0	0	0
人間科学研究科修士課程	10	13	13	6
合計	12	13	13	6

注：2018年度秋 semester 入学は除く

2018年度 常磐大学 入試結果

学部	学科等	入学定員	志願者	受験者	合格者
人間科学部	心理学科	90	173	172	165
	教育学科 初等教育コース	50	105	103	91
	教育学科 中等教育コース	16	34	34	32
	現代社会学科	90	194	194	187
	コミュニケーション学科	70	93	92	88
	健康栄養学科	80	153	151	148
総合政策学部	経営学科	85	179	179	166
	法律行政学科	75	90	90	84
	総合政策学科	85	119	119	110
看護学部	看護学科	80	177	174	135
合計		721	1,317	1,308	1,206

編入学試験

学部	入学定員	志願者	受験者	合格者
人間科学部	19	3	3	3
国際学部	7	0	0	0
コミュニティ振興学部	20	0	0	0
合計	46	3	3	3

2018年度 常磐短期大学 入試結果

学科	入学定員	志願者	受験者	合格者
キャリア教養学科	100	87	87	87
幼児教育保育学科	140	120	120	120
合計	240	207	207	207

学生生徒等在籍状況

Enrollment

常磐大学大学院 (2018年5月1日現在)

研究科	入学定員	収容定員	入学者数	現員
人間科学研究科博士課程(後期)	2	6	0	5
人間科学研究科修士課程	10	20	6	10
合計	12	26	6	15

常磐大学 (2018年5月1日現在)

学部	学科	入学定員	収容定員	入学者数	現員
人間科学部	心理学科	90	370	95	340
	教育学科	66	216	69	241
	現代社会学科	90	348	120	374
	コミュニケーション学科	70	308	49	177
	健康栄養学科	80	328	80	353
総合政策学部	経営学科	85	170	115	205
	法律行政学科	75	150	50	88
	総合政策学科	85	170	62	120
看護学部	看護学科	80	80	95	95
国際学部	経営学科	—	148	—	164
	英米語学科	—	126	—	64
コミュニティ振興学部	コミュニティ文化学科	—	132	—	66
	地域政策学科	—	132	—	108
	ヒューマンサービス学科	—	176	—	77
合計		721	2,854	735	2,472

常磐短期大学 (2018年5月1日現在)

学科	入学定員	収容定員	入学者数	現員
キャリア教養学科	100	200	84	167
幼児教育保育学科	140	280	118	253
合計	240	480	202	420

常磐大学高等学校 (2018年5月1日現在)

	入学定員	収容定員	入学者数	現員
常磐大学高等学校	440	1,320	356	1,198

智学館中等教育学校 (2018年5月1日現在)

	入学定員	収容定員	入学者数	現員
智学館中等教育学校	120	720	25	155

常磐大学幼稚園 (2018年5月1日現在)

	入園定員	収容定員	入園者数	現員
3歳児	55	55	56	56
4歳児	若干名	60	2	60
5歳児	0	60	0	56
合計	—	175	58	172

進路状況

Post-graduation

2017年度 常磐大学大学院 進路状況

研究科	修了生	就職者	就いた者	一時的な就いた者	大学院(研究科)	その他
人間科学研究科博士課程(後期)	0	—	—	—	—	—
人間科学研究科修士課程	3	2	0	0	0	1
被害者学研究科博士課程(後期)	0	—	—	—	—	—
被害者学研究科修士課程	1	1	0	0	0	0
コミュニティ振興学研究科修士課程	1	1	0	0	0	0
合計	5	4	0	0	0	1

2017年度 常磐大学 進路状況

学部・学科	卒業生	就職者	一時的な就いた者	大学院(研究科)	学校入学者	その他
人間科学部	心理学科	93	80	2	3	7
	教育学科	47	43	1	0	2
	現代社会学科	54	52	0	0	2
	コミュニケーション学科	25	24	1	0	0
	健康栄養学科	97	93	1	0	3
計	316	292	5	3	14	
国際学部	経営学科	56	52	1	0	3
	英米語学科	29	26	0	0	3
計	85	78	1	0	6	
コミュニティ振興学部	コミュニティ文化学科	33	27	2	0	4
	地域政策学科	35	34	0	1	0
	ヒューマンサービス学科	39	35	2	0	2
計	107	96	4	1	6	
合計	508	466	10	4	26	

2017年度 常磐短期大学 進路状況

学科	卒業生	就職者	一時的な就いた者	大学(学部)	学校入学者	その他
キャリア教養学科	78	72	2	0	0	4
幼児教育保育学科	146	144	1	1	0	0
合計	224	216	3	1	0	4

2017年度 常磐大学高等学校 進路状況

コース	卒業生	大学(学部)	短期大学(本科)	専修学校(専門課程)	専修学校(実践課程)	専修学校(職業実践)	就職者	その他
特進	67	57	2	4	0	0	4	
進学A	147	76	10	50	0	9	2	
進学B	74	42	1	26	4	0	1	
常磐大	73	43	21	8	1	0	0	
合計	361	218	34	88	5	9	7	

2017年度 智学館中等教育学校 進路状況

	卒業生	大学(学部)	短期大学(本科)	専修学校(専門課程)	専修学校(実践課程)	専修学校(職業実践)	就職者	その他
智学館中等教育学校	14	14	0	0	0	0	0	

教職員数

Faculty/Staff

教員数 (2018年5月1日現在)

学校	専任/非常勤	人数
常磐大学大学院	非常勤	2 (2)
常磐大学	専任 学長・教授	52 (13)
	准教授	41 (18)
	講師・助教	35 (16)
	小計	128 (47)
	非常勤	106 (36)
常磐短期大学	専任 教授	7 (3)
	准教授	10 (4)
	講師・助教	3 (1)
	小計	20 (8)
	非常勤	25 (18)
常磐大学高等学校	専任	79 (31)
	非常勤	22 (14)
智学館中等教育学校	専任	34 (10)
	非常勤	4 (2)
常磐大学幼稚園	専任	9 (8)
	非常勤	9 (9)
合計	専任	270 (104)
	非常勤	168 (81)

※()内の数字は、女性の人数を内数で示す。

職員数 (2018年5月1日現在)

学校	専任/非常勤	人数
常磐大学大学院・常磐大学・常磐短期大学	専任	98 (51)
	非常勤	42 (35)
常磐大学高等学校	専任	6 (2)
	非常勤	4 (3)
智学館中等教育学校	専任	3 (2)
	非常勤	4 (3)
常磐大学幼稚園	専任	1 (0)
	非常勤	4 (2)
合計	専任	108 (55)
	非常勤	54 (43)

※()内の数字は、女性の人数を内数で示す。

法人の概要

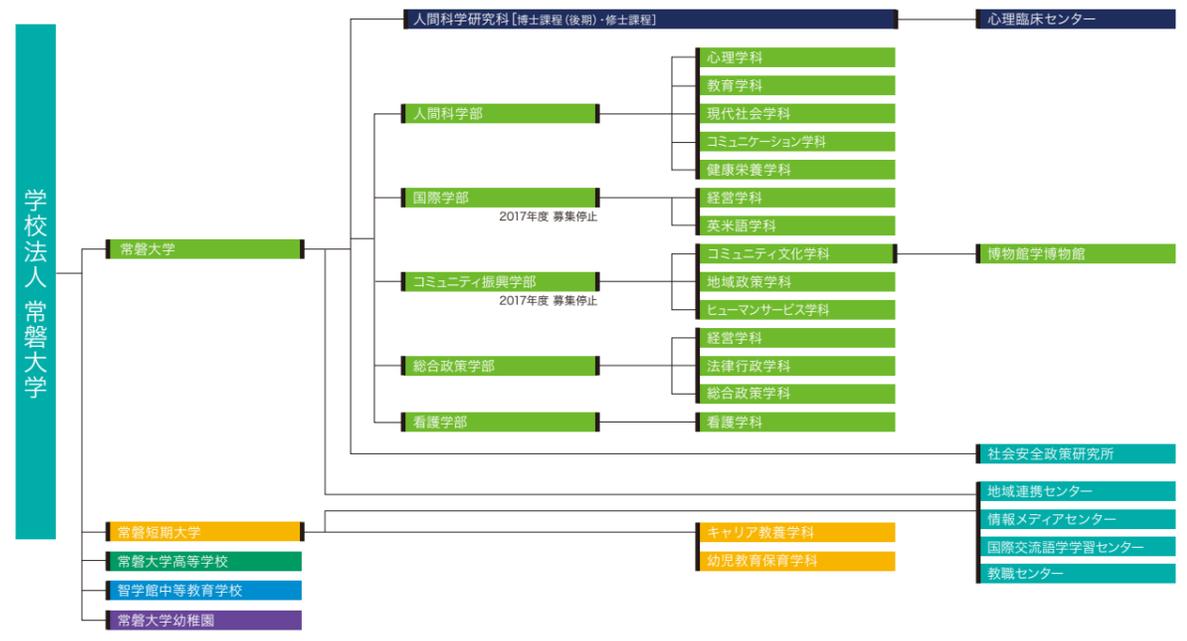
役員等

理事長	森 征一	
理事	富田 信穂	常磐大学・常磐短期大学長
	佐久間正祥	常磐大学人間科学部特任教授、水戸赤十字病院名誉院長
	中崎 啓子	常磐短期大学同窓会みわの会会長
	川俣 勝慶	茨城県信用保証協会会長、元茨城県副知事
	幡谷 信勝	茨城県信用組合副理事長
	田中 俊郎	慶應義塾大学名誉教授
常任理事	小櫃 重秀	智学館中等教育学校校長
	富田 恭平	
	小柳 武	
	横須賀敬章	
監事	荒川 誠司	弁護士、荒川法律事務所
	若山 実	税理士、若山実税理士事務所
評議員 学識経験者	佐久間正祥	常磐大学人間科学部特任教授、水戸赤十字病院名誉院長
	石渡千恵子	石渡産婦人科病院副院長、元茨城県教育委員会委員長
	師岡 文男	上智大学文学部教授、国際ワールドゲームズ協会 (IWGA) 理事
	橋本 五郎	読売新聞特別編集委員
	遠山 勤	(株)常陽銀行顧問、元(財)常陽地域研究センター理事長
	川俣 勝慶	茨城県信用保証協会会長、元茨城県副知事
	坂本 達哉	慶應義塾大学教授、元(学)慶應義塾常任理事
	森山 賢一	玉川大学教師教育リサーチセンター長、同大学院教育学研究科教授、同教育学部教授
	山口 正雄	鉾田市教育委員会委員
	山口 高史	国立病院機構水戸医療センター院長
	加藤 高藏	明利酒類株式会社代表取締役、一般社団法人水戸観光コンベンション協会会長

2018年6月1日現在

評議員 教職員	川津 園恵	(学)常磐大学 人事給与課統括
	渡部 茂己	常磐大学副学長
	柴田 幸義	常磐大学高等学校長
	李 精	常磐短期大学副学長
	水嶋 陽子	常磐大学人間科学部教授
	西野 光範	(学)常磐大学 学生支援センター統括
評議員 卒業生	池田 正則	常磐大学同窓会会長
	中崎 啓子	常磐短期大学同窓会みわの会会長
	小林千代子	常磐学園同窓会(常磐大学高等学校同窓会)副会長
評議員 学生・生徒 の保護者	渡邊 英一	常磐大学後援会会長
	江川 裕行	常磐短期大学父母の会会長
	柳澤 克彦	常磐大学高等学校PTA会長
参 与	田中 茂範	慶應義塾大学名誉教授
	齋藤 敬徳	齋藤・船橋労務相談事務所所長
	小松美穂子	

組織構成



常磐大学大学院 常磐大学 常磐短期大学



伝統の「実学」教育に基づき、
社会貢献できる
人材を育成します

常磐大学・常磐短期大学 学長
富田 信穂

PROFILE

専門：犯罪学・被害者学・被害者支援。
慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程単位取得満期退学。
常磐大学人間科学部助教授、教授を経て、2010年9月同学部長。
2014年4月常磐大学副学長。2015年4月より現職。
日本被害者学会理事、公益社団法人いばらき被害者支援センター理事長などを兼任。

高度情報化、グローバル化、過疎化、少子高齢化、価値観の多様化など、わが国の社会は急速に変化しています。またこの変化によりさまざまな問題が発生し、その解決が求められています。このような状況において、高等教育機関にはその要請に適切に対応して、社会に貢献することが求められています。これに応えることができる研究および教育こそが現代的意味における「実学」にほかなりません。

常磐大学・常磐短期大学は、「実学を重んじ真摯な態度を身につけた人間を育てる」との「建学の精神」に基づき、「自立・創造・真摯」という「教育の理念」に立脚した教育を一貫して展開してまいりました。現在は大学院1研究科、大学3学部9学科、短期大学2学科を擁する教育機関へと発展を遂げています。

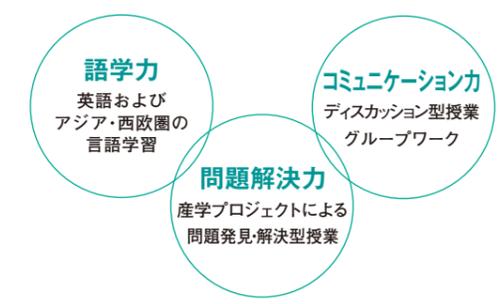
この伝統の実学教育を継承すると同時に一層推し進め、関係諸機関との密接な連携に基づき、研究活動、教育活動をはじめさまざまな活動を通じて、現代社会に発生する諸問題を発見し、それらを解決し、社会に貢献できる人材を養成することが本学に課せられた課題であると認識しております。

このような本学の基本的な考えを本学への志願者に理解していただけるように、また在学生も確認できるように、本学では2018年度より「+Link (プラス リンク) 人とつながる。未来とつながる」との標語を掲げて、さまざまな教育・研究活動の更なる強化を図ることとしました。これらの活動には、学生による行政や地域社会との連携による防災やまちおこしの活動、中小企業との連携による海外展開に関する研究・教育、医療機関や教育機関との連携による実習などが含まれます。これらを通して、実学教育を更に推進してまいります。

皆さま方におかれましては、本学の基本的な考えや、それに基づきさまざまな取り組みをご理解いただくとともに、本学への更なるご指導とご協力を賜り下さるよう心よりお願い申し上げます。

3つの重点ポイント

グローバル化が進行する現代社会には、解決が待たれるさまざまな問題が存在しています。
本学では、建学の精神や教育の理念に則り、水戸の地から、世界的視野で考えて主体的に判断・行動し、地域社会と国際社会に貢献する専門性を持った教養人を育成するため、3つの重点ポイントを掲げています。



夢の実現・社会への貢献

- 応用能力**
人間や人間を取り巻く問題を主体的に発見し、基礎能力と専門能力を駆使して解決策を見出し、問題解決に向けて自立して行動できる応用能力
- 専門能力**
知的活動の基盤となるアカデミックスキルと、人間・自然・文化・社会を深く理解する幅広い教養と知識を身につけ、それらを創造的な視点から捉えなおす専門能力
- 基礎能力**
社会人としての必要な知識と倫理観を備え、人間や人間を取り巻く問題を科学的な視点で捉えて、問題を解決する力に欠かせない基礎能力

豊かな人格
自分と真摯に向き合いながら他者の意見や立場を尊重し、自他相互の良いところは伸ばし、不十分なところを補うことができる

TOKIWAが目指す学生モデル

Tokiwa University Graduate School

常磐大学大学院

教育の理念
「自立」「創造」「真摯」

人間科学研究科 人間科学専攻 博士課程(後期) 人間科学研究科 人間科学専攻 修士課程

常磐大学大学院は、1989年に人間科学研究科を開設し、以来、人間に関わる研究課題を追究しています。人間を理解し、それらの問題を科学的な視点で研究することを目指し、多彩な研究領域を提示するとともに、間口の広い人間研究の機会を提供しています。

Doctoral Program in Human Science

人間科学研究科 人間科学専攻 博士課程(後期)

研究科の特色 人間や人間を取り巻く環境、社会にまつわる諸科学を究めるための研究科です。生命科学、心理学、教育学、社会学、コミュニケーション学、被害者学、社会福祉学など、人間追究に欠かせない研究テーマを集め、学際的、複眼的に人間を促えることのできる体制を築いています。他大学の大学院修士課程修了者にも適した博士課程(後期)です。

取得可能学位 博士(人間科学) **研究領域** 第Ⅰ領域 人間の発達と適応 第Ⅱ領域 人間と社会・コミュニケーション

Master's Program in Human Science

人間科学研究科 人間科学専攻 修士課程

研究科の特色 生命科学、心理学、教育学、社会学、コミュニケーション学、情報と社会、被害者学、地域振興学、地域福祉学といった周辺諸科学の英知を集め、複眼的な人間理解の姿勢が身につくカリキュラムを整えています。その特性により、領域を横断した研究計画やテーマに臨むための基礎を築く「人間科学の方法論研究」「人間科学合同演習」などの科目を充実させています。

取得可能学位 修士(人間科学) **研究領域** 第Ⅰ領域 人間の発達と適応 第Ⅱ領域 人間と社会・コミュニケーション 第Ⅲ領域 臨床心理学

研究科の教育研究上の目的 (常磐大学大学院学則第3条の2)

- 01 専攻分野について自立した研究者として研究活動を推進し、その成果をもって学術および文化の振興に寄与できる研究者および教育者を養成する。
- 02 専門的な職務に従事するために必要な研究能力および専門的知識を身につけて、社会の各分野で活動して社会一般の福祉の増進に寄与できる専門的職業人を養成する。

心理臨床センター

心理臨床センターは、常磐大学大学院人間科学研究科の施設として、臨床心理士の養成・訓練などの教育活動、心理臨床に関する研究活動を行う機関です。また、「地域や社会に開かれた大学」の機関として、「心の悩み」を抱える、あらゆる世代の人々を支援する心理相談活動も行っています。



Tokiwa University

常磐大学

教育の理念
「自立」「創造」「真摯」

人間科学部 総合政策学部 看護学部

常磐大学は1983年人間科学部を擁して開学。2017年に総合政策学部、2018年には看護学部を開設しました。人間の本質に迫る学際的なカリキュラムと、現代社会が直面する諸問題に対し具体的な解決策を提示する総合的なカリキュラムの中で、実践的で基礎能力に裏付けされた应用能力を身につけた、社会に貢献できる人材を養成します。

Faculty of Human Science

人間科学部 心理学科 教育学科 現代社会学科 コミュニケーション学科 健康栄養学科

学部の特色 人間とは何か。この素朴な疑問に、人文科学、社会科学、自然科学の学問研究の成果を結集して、学際的・総合的にアプローチする学部です。行動と心理、発達と教育、社会の仕組み、人と人とのコミュニケーション、健康と栄養など、人間の営みについて探究し、人々を取り巻くさまざまな事柄について実証的な研究を進めます。

取得可能学位 学士(人間科学)

学部の教育研究上の目的 (常磐大学学則第2条の2)

- 01 広い視野と豊かな人間性を備え、国際化する社会の各分野で活動してその進展と福祉の増進に貢献できる人材を養成する。
- 02 人間および人間の福祉の増進に関する学際的および総合的な教育研究を行う。

学科紹介

心理学科 Department of Psychology

人間の「心」に科学的な視点からアプローチし、さまざまな思考や行動の心理的過程やメカニズムを探求します。そして、多くの人が心理的問題を抱える現代において、人々がスムーズに社会に適応し、自己実現を果たせる環境づくりに寄与できる人材を育成します。

教育学科 初等教育コース 中等教育コース Department of Education

初等教育コースでは、幼稚園教諭や小学校教諭、中等教育コースでは中学校教諭や高等学校教諭の免許状を取得できるほか、両コースで司書教諭などの資格取得も可能です。充実した教育実習事前指導、実践的教育現場に即した授業や幅広い教員採用試験対策などを通して、実践的指導力を持つ教育者を養成します。

現代社会学科 Department of Contemporary Social Studies

社会学的な観点から人間が生きる世界・人々が幸せに生きるための仕組みを学び、現代社会の多様性を探求していきます。社会で生き抜く力を備え、新たな社会を創造することのできる人材、多様な社会の現実とその課題への対応策を考え、福祉社会の実現に向けて豊かな人間性を培い、幅広い専門性を身につけた人材を育成します。

コミュニケーション学科 Department of Communication

情報を読み解き、自らの考えを説明し、豊かな人間関係を築き、それを実社会で生かすことができる力を持った人材を育成します。メディアとコミュニケーションを理解し、表現する力を身につける「メディアコミュニケーション領域」と、英語でのコミュニケーション力、幅広い教養と国際感覚を身につける「グローバルコミュニケーション領域」があります。

健康栄養学科 Department of Health and Nutrition

21世紀の栄養ケア・マネジメントには、「人間栄養」の考え方に基づき、人間を広く捉える能力が求められます。栄養学と医学の高度な専門知識に加え、コミュニケーション能力や、豊かな人間性も兼ね備えた管理栄養士を養成します。

Faculty of Applied International Studies

国際学部 経営学科 英米語学科

国際学部は、国際感覚を備えたビジネスリーダーや語学のスペシャリストを養成しています。コミュニティ振興学部は、「まちづくり」をテーマに、文化、福祉、地域政策などの分野で課題を見出し貢献できる人材を育成しています。2017年度より両学部は募集停止。

Faculty of Community Development

コミュニティ振興学部 コミュニティ文化学科 地域政策学科 ヒューマンサービス学科

Tokiwa Junior College

常盤短期大学

教育の理念

「自立」「創造」「真摯」

キャリア教養学科 幼児教育保育学科

常盤短期大学は、1966年の開学当時から一貫して「実学」を重視し、教養に基づき社会に出て役立つ知識・スキルを教授してきました。キャリア教養学科、幼児教育保育学科の2学科を設置し、いずれの学科も実学を通じて身につけた人間力には高い評価を得ており、良好な就職実績を上げています。また、学びのステップアップを希望する学生に対しては、常盤大学をはじめ4年制大学への編入学に向けた支援も行っています。

Department of Career Development and Liberal Arts

キャリア教養学科

学科の特色 実社会で生かせる実務能力と教養を養うキャリア教養学科では、コミュニケーション能力、社会常識、情報処理能力、異文化理解力、自己育成力の5つの教養を学び、自立した職業人を育成します。

取得可能学位 短期大学士(キャリア教養学)

学科の教育研究上の目的 (常盤短期大学学則第2条の2)

- 01** ①の目的を達成するために、幅広い知識および自己内省力からなる「教養」を基礎とした職業人を養成するために、これらに係る教育研究を行う。
- 02** ②の目的を達成するために、幅広い知識に基づく実務能力を持つ人材を養成する。
- 03** ③の教育研究を通じて、しっかりとした職業意識に基づく基礎的職業能力を身につけた自立した学生をあらゆる職業分野に送り出す。

学びのコース

キャリア教養コース

心理学、歴史学、文化、色彩学を基礎として、実務を学ぶコースです。教養を深めながら、オフィスにおける実務をスムーズにこなせる専門能力を養成します。ICT能力、幅広い教養を備えた秘書や実務人を育成しています。

ビジネス経営コース

経営学、会計学、経済学を基礎として実務を学ぶコースです。実務的な教養を深めながら、オフィスにおける実務をこなせる専門能力を養成します。ICT能力はもちろん、簿記やビジネス能力を備えた実務人を育成します。

情報・医療事務コース

情報技術、情報コミュニケーションを学びながら、SE、プログラマーを希望する学生のためのコースです。これに加え、情報と医療を結びつけた医療事務を希望する学生のためのカリキュラムも用意し、ICTや医療事務など多様な専門職を学ぶことができます。

Department of Early Childhood Education and Care

幼児教育保育学科

学科の特色 幼児教育保育学科では、幼稚園教諭・保育士を目指します。幼児教育と保育の根幹となる学問を中心に学び、さらに器楽や音声、美術、体育、コンピューターなどの幅広い分野において、高度な知識と技能を身につけ、人間性豊かで実践力のある教育者・保育者を養成します。

取得可能学位 短期大学士(幼児教育保育学)

学科の教育研究上の目的 (常盤短期大学学則第2条の2)

- 01** 幼児教育および保育に携わる者として必要な豊かな人間性を育み、さらに高度な専門的知識および技術を身につけさせるために、これに係る教育研究を行う。
- 02** ②の目的を達成するために、幼児教育および保育を通して人間関係の基礎を教授し、保育の技術を実践的に教授する。そして、保育を通して自己の成長を図るように教育する。
- 03** ③の教育研究を通じて、質の高い実践力を持ち、自覚または責任を兼ね備え、子どもたちと心を通い合わせることで豊かな人間性を持った保育者を社会に送り出す。

学びの特色

幼児教育・保育の専門科目

子どもの成長を見つめながら、自分自身を向上させる。そんな豊かな人間性を養うために、「教育原理」や「教育心理学」、「保育者論」など、幅広い専門科目を用意しています。対象となる子どもたちの本質を理解しながら、保育者に必要な知識と技術を徹底的に修得していきます。

保育者の技術を修得する科目

豊かな人間性を育むために必要な、「器楽」「声楽」「合唱」「造形表現」「幼児と絵」といった、音楽や美術などの芸術系の科目が充実しています。ピアノ練習用教室、合唱室、図工室などの専用の施設も整っています。また、「手作り玩具」や「基礎体育」、「子どもの保健」など、保育者に欠かせない技能を修得する科目も多数設けています。

教育実習・保育実習

1年次の春 semester から、キャンパス内にある常盤大学幼稚園で、今後の幼児教育の基本を築く「教育実習」が行われます。そして2年次には、学外の幼稚園や保育所・福祉施設などで、学んできた理論を実践の場で具体化する実習を行います。その中で、保育者としての責任と自覚が身につけていきます。

Tokiwa University

常盤大学

Faculty of Management and Administration

総合政策学部 経営学科 法律行政学科 総合政策学科

学部の特徴 国際学部とコミュニティ振興学部を発展的に改組し、2017年度より総合政策学部がスタートしました。総合政策学部は、現代社会が直面する諸問題に、学際的・総合的な観点から取り組み、幅広い観点から知識を蓄え教養を高めることで社会を客観的に見渡し、正当に評価できる能力を養うとともに、問題解決に向けて具体的な提言・提案のできる人材を育成します。

取得可能学位 学士(総合政策学)

学部の教育研究上の目的 (常盤大学学則第2条の2)

- 01** 学際的・総合的な観点から、現代の社会が直面する諸問題に取り組み、その具体的な解決策を提示することのできる実践的能力を備えた人材を養成する。
- 02** 幅広い観点からの知識を蓄え、現代の社会が直面する諸問題を俯瞰し正当に評価できること、および具体的な解決策を導き提言・提案することに関する実践的能力の涵養に重点を置いた教育研究を行う。

学科紹介

経営学科 Department of Management

社会のグローバル化や企業活動の多様化・複雑化に対応して、幅広い教養を基礎とした国際的なバランス感覚と専門的なマネジメント知識、ビジネススキルを身につけた人材を育成します。また、企業や地域社会の課題解決に寄与できるリーダーシップも養います。

総合政策学科 Department of Policy Management

国や地方における社会の営みと、政治・経済との関係をはじめ、文化、環境、交通、情報などの諸政策について総合的に学修します。さらに地方創生や観光ビジネスについても学んでいきます。

法律行政学科 Department of Law and Administration

法律や制度の知識を問題の合理的解決に役立て、また行政の対応について考えることができる人材を育成します。さらに、人々の豊かな生活や安心安全な社会の実現のための方策についての提案力を養います。

Faculty of Nursing

看護学部 看護学科

学部の特徴 全ての人がある人らしく幸せな人生を送れるように確かな看護で身体と心をサポートすることが求められています。2018年に開設した看護学部では、水戸医療センターなど県内の国立病院機構3施設と連携しながら、看護学の専門知識と技術を備えることはもちろん、自らの言葉で看護について自信を持って語れる人材を育成します。

取得可能学位 学士(看護学)

学部の教育研究上の目的 (常盤大学学則第2条の2)

- 01** 生命と人間の尊厳を尊重する倫理的態度を基盤として、人々の多様な健康ニーズに対応できる柔軟な思考とグローバルな視野を持ち、健康と生活の質の保持増進に貢献するとともに、主体的に行動し問題解決できる専門的知識と実践的な技術を有し、生涯にわたり現状を改善できる姿勢を持った看護系人材を養成する。
- 02** 現代の保健・医療・福祉・教育等の課題を理解し、人々の健康な生活の保持増進に関する実践的能力の涵養に重点を置いた教育研究を行う。

学科紹介

看護学科 Department of Nursing

充実した環境で最先端の看護を学び、看護学の専門知識と実践的な技術を備え、柔軟な思考で地域が直面する多様な健康課題の解決に貢献できる地域に根ざした看護系人材を養成します。

常磐大学大学院・常磐大学・常磐短期大学

学生サポート／センター・研究所

学生支援センター（保健室・学生相談室）

学生一人ひとりが、より充実した学生生活を送ることができるように、さまざまなサポート体制を設けています。学籍管理から履修相談、アルバイトの紹介や奨学金の手続き、資格・実習関連、課外活動等に至るまで、学生生活全般のサポートをワンフロアで完結できるように対応しています。保健室では看護師が常駐し、応急処置や健康相談、定期健康診断などを実施。また学生相談室では学生生活上のさまざまな悩みや問題について、専門のカウンセラーが無料で相談に応じています。



学生支援センター



保健室

キャリア支援センター

学生の目指す進路の実現に向けて万全の就職支援体制を整えています。入学時から各種ガイダンスを行い、正規授業科目にはキャリア形成の科目を用意。大学3年次、短期大学1年次後半からは、多彩な就職支援プログラムを実施するほか、豊富な知識・スキルを持った職員と指導教員が協力し、学生一人ひとりにきめ細かい丁寧な指導・支援を実践しています。



主な支援プログラム

- 就職ガイダンス ●自己分析セミナー ●業界・職種研究セミナー ●面接・グループディスカッション対策講座 ●エントリーシート対策講座 ●筆記試験(SPI)対策講座 ●就活メイク講座 ●就職支援バスツアー ●学内合同企業説明会 ●公務員試験対策講座 ほか

教職センター

幼稚園、小学校、中学校、そして高等学校の教員免許状を取得するための課程を教職課程といい、教職センターはこの教職課程の運営、教育職員免許状の取得に必須である教育実習の円滑な実施や教職課程に関する所轄庁への申請等を行う、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の教員を目指す学生の総合的なサポートセンターです。教育実習、介護等体験の実施、教員採用試験のサポート、茨城県教育委員会や水戸市総合教育研究所との連携・協力、教員免許状更新講習の企画、実施等も行っています。



国際交流語学学習センター

地域社会にグローバルな視野で貢献できる人材を育成する拠点として、学生たちにさまざまな国際交流や語学力向上の機会を提供しています。具体的には、①単位修得となる海外研修の展開、②交換留学制度での留学生の受け入れと本学学生の派遣、③交換留学生との英会話交流活動(English Connections)の企画や学生主体による国際交流イベントのサポート、④外国人教職員や留学生とのTalk Timeの設定、⑤留学生と本学学生が共同生活を送る「国際交流会館」の運営、⑥国際活動に関する情報の収集と発信などです。さらに、海外の機関との学術交流を支援しつつ、地域の国際団体との相互協力も推進しています。



情報メディアセンター

情報メディアセンターには、情報社会の基本を学ぶPC教室、同演習室、個人またはグループで使用できるPC学習室、グラフィック映像制作機能を備えたマルチメディア教室、英語学習用の教材を備えたCALLラボ、デジタル放送の録画やメディア変換ができるワークショップルームなど、情報分野の設備を集約したIT学習環境が整っています。また、図書館には、約37万冊の図書、約5,000種の雑誌などの資料が開架式で収蔵され、OPAC(蔵書検索)のほか、論文等の情報検索データベースや約7,000種の電子ジャーナルが整っています。情報メディアセンターは、あらゆる情報教育に対応する中核施設として、教育ならびに研究に利用されています。



地域連携センター

地域連携センターは、本学の持つ知的・人的・物的資源を活用し、地域社会の発展に貢献することと高等教育の普及を目的とし、「地域連携・貢献事業」と「生涯教育・学習事業」の2つの機能を持っています。茨城県内の8つの自治体等と連携協力協定を締結し、学生によるまちづくりの提案や、各種イベントの企画・運営、企業との商品開発など、さまざまな形態で産学官民連携活動を行っています。また、オープンカレッジ(公開講座)では、幅広い世代を対象に教養や語学などの講座を開講。在学生向けに資格取得支援のための講座も実施しています。



地元Jリーグチームとの連携事業「常磐大学&水戸ホーリーホックコラボデー 2017」を企画・運営



一般社団法人茨城県経営者協会と「産学連携講座」を開講



「常磐大学若者向け起業セミナー」このセミナーは、茨城県のいばらき創業 10,000 社プロジェクト事業として実施



茨城県内の13校が連携し、「いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム」を設立

社会安全政策研究所

社会安全政策研究所は、2017年4月、常磐大学国際被害者学研究所(TIVI)を発展的に改組する形で設置されました。TIVIは、国内外の研究者が集結し、ジャーナルの発行、国際研修、国際セミナーの開催など、主として被害者学や被害者支援に焦点を当てて研究し、多くの成果を収めてきました。今回設置された社会安全政策研究所は、これらの成果と実績を基礎に、社会安全、防災、災害対策、交通安全なども視野に入れた研究所として開設されました。研究者による学際的研究に留まらず、実務家の参加を得て、実務家にも評価される研究を目指しています。



常磐大学高等学校

校訓
頼れる自分になる
正しい自分になる
豊かな自分になる



常磐大学高等学校
校長
柴田 幸義

本校は、1922年に水戸常磐女学校として開設されました。その前身である裁縫私塾の創立から数えて100年を超える歴史ある伝統校です。その後、常磐女子高等学校となり、2000年には男女共学化に取り組み、現在の常磐大学高等学校として新たな一步を踏み出しました。開学以来、本校で学んだ36,000名を超える卒業生が社会に巣立ち、さまざまな分野で活躍しています。

共学化と同時に、本校の校訓は新しく「頼れる自分になる」「正しい自分になる」「豊かな自分になる」となりました。自ら進んで何事にも取り組む姿勢を、「～になる」と表現し、生徒一人ひとりの自主性を重んじています。

「頼れる自分になる」とは、志を立て、その実現のための不断の努力により独立自尊の気構えを身につけること、生涯にわたって実生活を自らの手で切り拓くとともに、他の人々と協調協力し、新しい時代を開拓する者となること、さらには、自分の責任で物事に対処する生活態度を身につけることを意味しています。

「正しい自分になる」とは、人生と社会に対する正しい認識と判断力・行動力を身につけ、信念に従って生きる精神力と身体を鍛えること、高校生としての本分を自覚し、果たすべき責任を全うする態度を養うこと、また、基本的生活習慣と学習習慣の確実な定着を目指すことを意味しています。

「豊かな自分になる」とは、各自の天分・個性を磨き、それぞれの特性を発揮して社会に貢献し、自信と誇りと喜びを持って、他の人々とともに生きること、他の人を思いやる心や豊かな情操を身につけること、さらには文武両道、バランスの取れた人となることを目指し、常に自分を磨き成長の糧とすることのできる生活態度を身につけることを意味しています。

私たち教職員は、未来の豊かな自分の姿を思い描き、そのために努力する生徒一人ひとりを、時には前に立ってリードし、時には後ろから見守り、またある時はすぐ横で声をかけながら支えてまいります。

3年間の学びの流れ

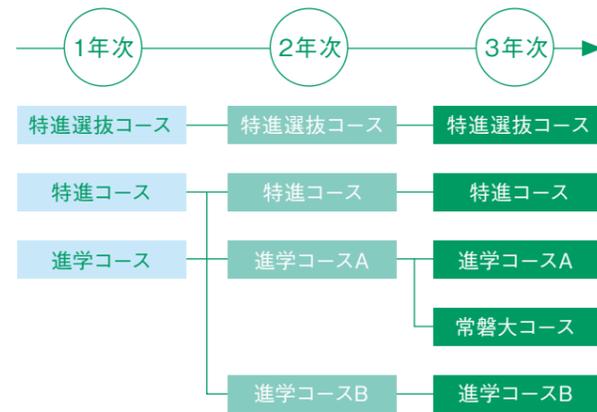
希望の進路に応える複数のコースを設け、入学段階から目標を見据えたカリキュラムで実践力を育む。

それぞれの進路希望に合わせて学ぶ複数のコースが学習効果を高めます。入学段階では「特進選抜コース」、「特進コース」、「進学コース」のいずれかに属します。

「特進選抜コース」は課題探究型学習を軸とする教育活動によって、確実な知恵の習得や思考力、表現力の育成を目指します。

「特進コース」は国公立大学や難関私立大学を目指すコースで、7限授業や0限ゼミが効果的に展開されます。大学のキャンパス見学や学習合宿を経験しながら、進むべき道を明確にしていきます。

「進学コース」は、1年次に徹底した基礎学力の習得を図り、2年次から文系のAコースと理系のBコースに分かれます。希望制のゼミも開講されており、学習面でのサポートも充実しています。3年次には常磐大学・常磐短期大学に進学を希望する生徒を対象に「常磐大コース」を設置しています。一貫校のメリットを生かし、連携授業の実施や優先的な推薦枠の確保もされています。



常磐大学高等学校の学びの特徴は、併設の常磐大学・常磐短期大学の教授陣による授業や、教育施設・設備の活用、常磐大学幼稚園でのインターンシップなど、法人全体での連携教育にあります。また、語学研修制度や、常磐大学で学ぶ海外留学生との交流の機会を設けるなど、海外文化の理解、実践的語学力の向上を目指したカリキュラムも豊富にあり、在学生在が求める多様な進路に対応した学びを提供しています。

学びの特色

常磐大学との連携教育

常磐大学の充実した施設・設備を利用することができます。約37万冊の蔵書を有する大学図書館は、高校の図書館とネットワークで結ばれており、高校に居ながらにして、大学の蔵書を検索し閲覧することも可能です。常磐大コース(3年次)では、大学での学びを先取りし「大学特別講座プログラム」を実施しています。「知る喜び、考える喜び」に浸り、常磐大学・常磐短期大学進学への意欲を高めながら、単位の修得ができます。また、1・2年の段階でも、常磐大学の教授陣による進路ガイダンスや講演が行われ、より深く物事を捉えるための刺激に満ちています。さらに、秋には常磐大学への留学生と会話を楽しむ English Connectionsというプログラムを用意し、生の英語を学び、異文化を体験できるチャンスを数多く設けています。



国際教育

生きた英語を学ぶ目的でカナダへ語学学習に行くプログラムが2つあります。1つ目は3カ月語学留学で、8月から11月の3カ月間カナダでホームステイしながら、ハリー・エインリー高校に通い、英語はもちろん、数学や歴史、化学、体育などの授業を現地の高校生と一緒に受けます。休日は、ホストファミリーと一緒にショッピングや観光をしたり、日本にはない行事に参加したりして、語学とともに文化に触れます。2つ目はサマーキャンプで、夏休みに約10日間、英語の集中講義を受け、培った英語を実際に使って市内散策・カナディアンロック研修に出かけます。今までに多くの生徒がこのプログラムに参加して語学力を身につけ、また、世界に目を向ける姿勢を養ってきました。



特進選抜コースの取り組み

このコースは知識詰め込み型の学力ではなく、知識を基にした思考力や判断力・表現力といった、「21世紀社会で求められている学力」を育てるような活動をしています。常陸太田市での社会調査を通して、探究活動の基礎・基本を体験し、その後の問題解決型学習によって、思考力や判断力、新しい発想を生み出す想像力を育てました。また、年度末にはオーストラリアへの研修へ赴き、現地の方との交流を通して言語力を養うとともに、何事においても自分からチャレンジすることの大切さを学んできました。



校外学習

仲間同士で個性を確認し合い、仲間とともに過ごす機会を創出するため、授業の一環として校外学習や芸術鑑賞会を行っています。感性豊かな高校生時代に重要な情操教育を行い、校訓の「豊かな自分になる」を実践しています。教室を離れて体験する、貴重な時間を共有することで、かけがえのない一生の思い出をつくります。



部活動

体育系 2017年度は、体操部がインターハイに出場したほか、水泳部のインターハイ出場・全国JOCジュニアオリンピックカップ200m背泳ぎ3位入賞、新体操部個人総合でインターハイ3位入賞・全国選抜大会10位入賞を果たしました。また、男子バスケットボール部の関東大会出場、女子ソフトボール部の全国私学大会出場、女子サッカー部の関東大会出場など各部活動が活発に活動し、多くの輝かしい成果を残しています。

サッカー部(男女)・野球部・陸上部・水泳部・バスケットボール部(男女)・女子ソフトボール部・バドミントン部(男女)・硬式テニス部(男女)・ソフトテニス部(男女)・体操部・新体操部・剣道部・卓球部・ダンス部・女子バレーボール部・男子バレー同好会・チアリーディング・応援団

文化系 美術部や書道部、写真部、吹奏楽部を中心に作品展やコンクールで活躍しています。それぞれの部活動が活動の機会を増やし、積極的に活動する中で、日々技術の向上を図り、研究を深めています。

書道部・美術部・写真部・吹奏楽部・演劇部・茶道部・箏曲部・文芸部・JRC部・社会部・生物部・化学部・コミック同好会・囲碁同好会・合唱同好会・ESS同好会



キャンパス案内

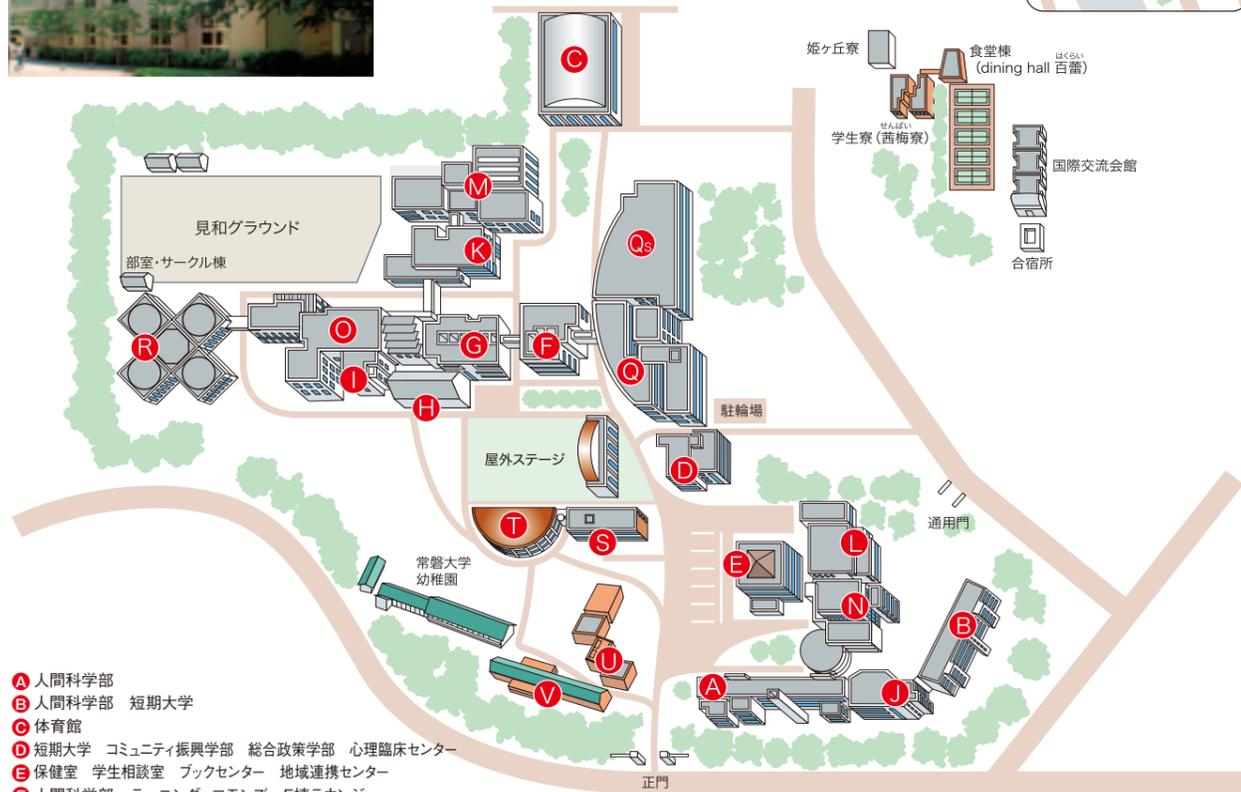
Campus Guide

見和キャンパス・桜の郷キャンパス MIWA Campus・SAKURANOSATO Campus

幼稚園から短期大学・大学・大学院の学習・研究施設まで、高等教育にふさわしい環境を整えた常磐大学の中核キャンパス。

見和キャンパスには、大学院、大学、短期大学、そして幼稚園の主要な教育・研究施設が集約されています。小さな森を有する緑豊かな敷地内に、大学と短期大学の講義・研究棟をはじめ、学生支援センター、キャリア支援センター、情報メディアセンター、国際交流語学学習センター、体育館、学生食堂など、毎日のキャンパスライフに不可欠な施設・設備を全て備えています。また、地域に開かれた大

学として、図書館の地域住民への開放を行っているほか、地域連携センター、社会安全政策研究所では地域住民に学習・研究の機会を、心理臨床センターではカウンセラーによる心身のケアの機会を、幼稚園では教育・保育相談の機会を提供しています。2018年4月には常磐大学看護学部設置に合わせて、水戸医療センターに隣接した桜の郷キャンパスが開設されました。



- A 人間科学部
- B 人間科学部 短期大学
- C 体育館
- D 短期大学 コミュニティ振興学部 総合政策学部 心理臨床センター
- E 保健室 学生相談室 ブックセンター 地域連携センター
- F 人間科学部 ラーニング・commons F棟ラウンジ
- G 人間科学部
- H 大講義室
- I 動物心理学実験棟
- J 人間科学部 短期大学
- K 人間科学部 国際学部 コミュニティ振興学部 総合政策学部
- L 学生食堂 コンビニエンスストア ゲストハウス
- M 人間科学部
- N 短期大学 N棟ラウンジ
- O 人間科学部

- Q 情報メディアセンター(図書館) 大学院 国際交流語学学習センター 社会安全政策研究所 センターホール インターネットカフェパブリック
- Q2 情報メディアセンター
- R 国際学部 総合政策学部
- S 本部棟(事務棟) 学生支援センター 教職センター
- T 学生ホール 学生食堂 柔剣道場 キャリア支援センター
- U コミュニティ振興学部 総合政策学部 アドミッションセンター
- V コミュニティ振興学部 総合政策学部
- SC 桜の郷キャンパス

- 屋外ステージ
- 国際交流会館
- 合宿所
- 学生寮(西梅寮)
- 食堂棟(dining hall 百番)
- 姫ヶ丘寮
- 常磐大学幼稚園

新荘キャンパス SHINSO Campus

新校舎では無線LAN環境等を備え、アクティブラーニングに対応。環境や安全にも配慮した高等学校専用のキャンパス。

新荘キャンパスは、常磐大学高等学校専用のキャンパスです。正門を入ってすぐのところにそびえる本館は、1年を通して快適に学習できるように、全室に冷暖房を完備しています。また、本館には、バスケットボールなどの競技に使用できるアリーナや、25mの室内温水プールがあり、体育館や全天候型の新荘グラウンドとともに、常磐大学高等学校の文武両道精神を支えています。2014年3月にはキャンパスの北側に新校舎(2号館)が完成。生徒の自立的学習を支援するためのラーニング・commonsゾーンと呼ばれる環境を整備して、さまざまな学習活動に対応します。



- A 本館、アリーナ
- B 温水プール
- C 1号館
- D 2号館(新校舎)
- E 3号館
- F 体育館
- G 70周年記念講堂
- H 南館
- I 新荘グラウンド
- J 芝生の広場

諸澤みよ記念館 Morosawa Miyo Memorial Hall

世紀を超えて継承される伝統の教育理念。百年にわたる常磐の歴史を伝える、「諸澤みよ記念館」。

学校法人常磐大学開学100周年の記念事業の一環として「諸澤みよ記念館」が、2006年12月に竣工しました。その外観は創立者・諸澤みよが晩年を過ごした地上2階建ての旧諸澤邸を再現しています。また、内部には、今日の実学重視の姿勢に通ずる「技術」をコンセプトワードに数々の資料を公開・展示。分かりやすく創立者の足跡を伝えています。



同窓会館 Alumni Association Hall

同窓会組織をつなぎ、卒業生の活動と交流の拠点となる「同窓会館」。

同窓会館は、常磐大学高等学校にほど近い水戸市新荘にあります。2階建て、総床面積439.91㎡のこの会館は、エントランスホールや応接室、多目的な用途に使える楓ホール、会議場を備え、各同窓会、後援会、サークル・ゼミの集まり等、卒業生、在学(校)生、現・旧教職員や保護者の方々にご利用いただいています。一般の方々にも広く開放しており、幅広い利用が可能な施設です。



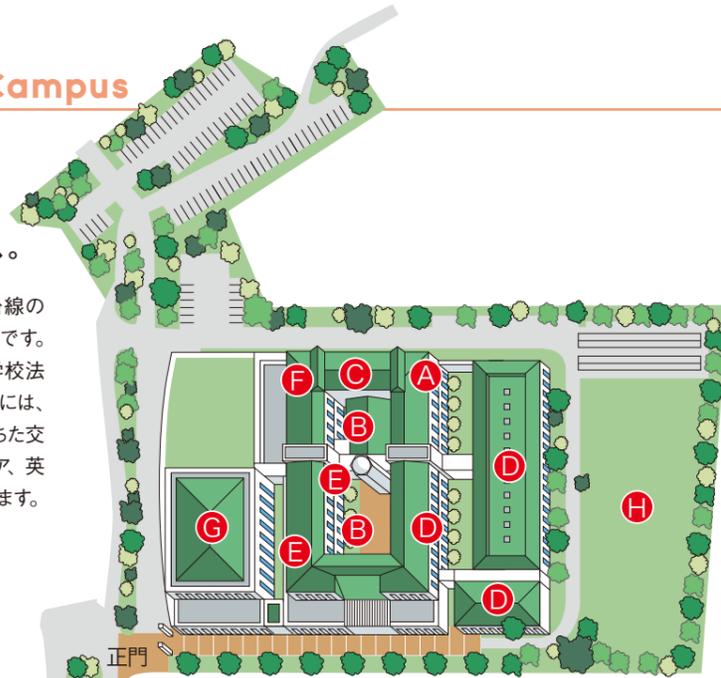
キャンパス案内

Campus Guide

小吹キャンパス KOBUKI Campus

温もりのある木造校舎と教育をサポートする最新設備。智学館中等教育学校専用キャンパス。

常磐自動車道・水戸インターに続く国道50号バイパス沿線の小吹キャンパスは、智学館中等教育学校の専用キャンパスです。近くには市立の植物園、運動競技施設が点在。西側には学校法人常磐大学の小吹グラウンドが隣接しています。キャンパス内には、木造、低層設計で生徒と生徒、生徒と教職員の温もりに満ちた交流を演出する校舎があり、理科実験室、体育館、カフェテリア、英語学習施設など使い勝手の良さを考慮してレイアウトしてあります。



- A CALL教室
コミュニケーションスペース
- B カフェテリア
陽のあたる広場(中庭)
- C 図書室
- D 普通教室 選択科目教室
シアター
- E 各種実験室 天体観測室
- F カウンセリング室
- G 体育館
- H グラウンド
- I テニスコート



小吹グラウンド KOBUKI Ground

400mトラックの陸上競技場を完備した、学生・生徒の体育・クラブ活動を支える総合運動場。

小吹キャンパスに隣接した水戸市小吹町に、総面積5万㎡を超える広大な総合運動場を有しています。小吹グラウンドは、サッカー・ラグビー場としての機能を備えた400mトラックの陸上競技場のほか、野球場、ソフトボール場、弓道場、さらには雨天練習場やクラブハウスを配置し、学生・生徒の体育・クラブ活動をバックアップしています。また、グラウンドの周辺には四季の移り変わりを彩る高木約500本、低木約6,000本を含む、40種以上の樹木を植栽。周囲との調和や環境にも配慮しています。



- A 陸上競技場・サッカーグラウンド
- B 野球場
- C 雨天練習場
- D ソフトボール場
- E クラブハウス
- F 弓道場「尚志館」
- G 高等学校野球場
- H 駐車場



発行・出版物

Publications



大学院学術論究
常磐大学大学院 紀要



人間科学
常磐大学人間科学部 紀要



常磐総合政策研究
常磐大学総合政策学部 紀要



常磐短期大学
研究紀要
常磐短期大学 紀要



教職実践研究
常磐大学 教職センター 紀要



心理臨床センター紀要
常磐大学大学院
人間科学研究科
心理臨床センター 紀要



Mission & Vision
学校法人常磐大学



Annual Report
学校法人常磐大学
活動と財務状況



学校案内
常磐大学大学院
パンフレット



学校案内
常磐大学・常磐短期大学
パンフレット



学校案内
常磐大学高等学校
パンフレット



学校案内
智学館中等教育学校
パンフレット



Sa・Sa・e
常磐大学幼稚園
パンフレット



Topos
学校法人常磐大学 広報誌

アクセス

Access

